

(様式第 10)

久大病 (管) 番 16 号
令和 3 年 10 月 4 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人久留米大学
理事長 永田 見生

久留米大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法 (昭和 23 年法律第 205 号) 第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則 (昭和 23 年厚生省令第 50 号) 第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和 2 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒830 - 0011 福岡県久留米市旭町67番地
氏 名	学校法人久留米大学 理事長 永田 見生

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

久留米大学病院

3 所在の場所

〒830-0011 福岡県久留米市旭町67番地	電話 (0942) 31-7602
-------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 <input type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
<input checked="" type="checkbox"/> 1呼吸器内科 <input checked="" type="checkbox"/> 2消化器内科 3循環器内科 <input checked="" type="checkbox"/> 4腎臓内科 5神経内科 6血液内科 7内分泌内科 8代謝内科 9感染症内科 10アレルギー疾患内科またはアレルギー科 11リウマチ科	
診療実績	
循環器内科は心臓・血管内科、神経内科は脳神経内科、血液内科は血液・主要内科、内分泌内科及び代謝内科は内分泌・代謝・糖尿病内科、感染症内科は呼吸器内科及び感染制御科 (院内診療科)、アレルギー疾患内科は呼吸器内科、小児科、耳鼻いんこう科、皮膚科等、リウマチ科は膠原病内科 (院内診療科)、整形外科で診療を行っている。	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していな

い診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
1呼吸器外科	2消化器外科
5血管外科	6心臓血管外科
3乳腺外科	7内分泌外科
4心臓外科	8小児外科
診療実績 乳腺外科及び内分泌外科は乳腺・内分泌外科（院内診療科）で診療を行っている。	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科	2小児科	3整形外科	4脳神経外科	5皮膚科	6泌尿器科	7産婦人科
8産科	9婦人科	10眼科	11耳鼻咽喉科	12放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	15麻酔科	16救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1小児歯科	2矯正歯科
3口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 形成外科	2 リハビリテーション科	3 病理診断科	4 美容外科
--------	--------------	---------	--------

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
53 床	0 床	0 床	0 床	965 床	1,018 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	527人	7人	528.3人	看護補助者	150人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	15人	0人	15人	理学療法士	27人	臨床検査技師	81人
薬 剤 師	69人	1人	69.3人	作業療法士	10人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	10人	その他	0人
助産師	45人	3人	47.4人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	1,012人	40人	1,040.3人	臨床工学士	26人	医療社会事業従事者	21人
准看護師	1人	0人	1人	栄 養 士	1人	その他の技術員	46人
歯科衛生士	4人	1人	4.5人	歯科技工士	1人	事務職員	169人
管理栄養士	14人	0人	14人	診療放射線技師	57人	その他の職員	40人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	53.1人	眼科専門医	12人
外科専門医	59.1人	耳鼻咽喉科専門医	11人
精神科専門医	15人	放射線科専門医	0人
小児科専門医	32人	脳神経外科専門医	14人
皮膚科専門医	6人	整形外科専門医	26人
泌尿器科専門医	10人	麻酔科専門医	13人
産婦人科専門医	19.8人	救急科専門医	12人
		合 計	283人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (志波 直人) 任命年月日 令和 2年 4月 1日

平成19年4月～	医療安全管理対策委員会委員
平成25年4月～平成28年3月	医療安全管理部長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	762.5人	16.8人	779.3人
1日当たり平均外来患者数	1,649.2人	73.8人	1,723.0人
1日当たり平均調剤数	1,414.4 剤		
必要医師数	177.8人		
必要歯科医師数	7人		
必要薬剤師数	26人		
必要(准)看護師数	451人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	1,546.99 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	61床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急生搬	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 台数	483.43 m ² 台	病床数	41床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床積 共用する室名	79.8 m ²			
化学検査室	468.78 m ²	＃	(主な設備) ※別紙1のとおり			
細菌検査室	198.36 m ²	＃	(主な設備) ※別紙1のとおり			
病理検査室	274.10 m ²	＃	(主な設備) ※別紙1のとおり			
病理解剖室	56.53 m ²	＃	(主な設備) ※別紙1のとおり			
研究室	26,018.13 m ²	＃	(主な設備) ※別紙1のとおり			
講義室	1,588.2 m ²	＃	室数	16室	収容定員	1,247人
図書室	2,838.18 m ²	＃	室数	6室	蔵書数	267,716冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	91.9 %	逆紹介率	80.9 %
算出根拠 A: 紹介患者の数			17,940 人
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			16,628 人
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			953 人
D: 初診の患者の数			20,541 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
藤田 昌樹	福岡大学病院	○	医療安全の知識を持つ医師	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
押川 麻美	福岡大学病院		医療安全の知識を持つ看護師	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
鷲山 厚司	福岡大学病院		医療安全の知識を持つ薬剤師	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
平田 ナツ子			医療を受ける者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2
				有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
公表の方法 ホームページで公表	

主 な 設 備

様式10 別紙①

		機 器
化学検査室	生化学	グルコース(2台)
		グリコヘモグロビンHA-8182(2台)
		臨床化学自動分析装置 LABOSPECT008α(緊急検査)
		臨床化学自動分析装置 LABOSPECT008α
		自動浸透圧測定装置オズモステーション
		呼気中13CO2分析装置(POCONE ピロリ検査)
		ABL90 FLEX(2台) 血ガス
		自動分析装置ディメンション EXL200
	免疫	自動化学発光酵素免疫分析装置 Accuraseed
		全自動蛍光免疫測定装置ミュータスワコー i30
		エンドトキシン、β-グルカン測定装置トキシノメーター MT-5500、拡張モジュール2台
		ステーション
		カテコールアミン分析計 HLC-725CAIII
		全自動化学発光酵素免疫測定システム ルミパルスL2400
		アーキテクトi2000 SR
		全自動電気泳動分析装置 Epalyzer 2 Junior
	コバス8000 e 801(2台)	
	血液	XN9100(CBC)
	一般	便潜血、尿中、髄液定量自動測定装置 QUICK RUN
		尿化学分析装置クリテック ノーバス
凝固	HISCL-5000	
	全自動血液凝固分析装置コアプレスタ(2台)	
輸血	全自動輸血検査装置オートビュー イノーバ	
輸血	全自動輸血検査装置オートビュー ビジョン	
細菌検査室	細菌検査	ウォークアウェイ DxM 1096(2台)
		cobas 6800可動式×1式 cobas TaqMan×1式
		自動同定感受性検査装置 バイテック2コンパクト
		自動培養自動分析バクテックFX Stack400
		質量分析装置MALDI
		遺伝子解析装置Verigene
病理検査室	病理検査	密閉式自動固定包埋装置(VIP6A1-J0)
		自動特殊染色装置(Ventana NX-SS System)
		自動免疫染色装置(Ventana BenchMark ULTRA)
		cobas® 4800システム(コバスz480)
		自動HE染色装置(Ventana HE600)
		組織切片自動作製装置(ティシュー・テック スマートセクション SS-QA1)
病理解剖室		解剖台
		カメラ、モニター

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	27人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
自家骨髄単核球移植による下肢血管再生治療 バージャー病(従来の治療法に抵抗性を有するものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。)	1人
ニボルマブ静脈内投与及びドセタキセル静脈内投与の併用療法 進行再発非小細胞肺癌(ステージがⅢB期、ⅢC期若しくはⅣ期又は術後に再発したものであって、化学療法が行われたものに限る。)	0人
テモゾロミド用量強化療法	0人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	内視鏡下副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 前頭洞炎に対する内視鏡下前頭洞単洞化手術である。2015年に当院では施設基準を満たしている。			
医療技術名	経外耳道的内視鏡下耳科手術(TEES)	取扱患者数	84人
当該医療技術の概要 経外耳道的内視鏡下耳科手術(transcanal endoscopic ear surgery:TEES)は、耳下手術のほとんどのプロセスを内視鏡下で行う低侵襲手術であり、ハイビジョン画質(Full HD)の3CCDカメラを搭載した内視鏡と精細で高解像度な細径内視鏡の出現により、近年国内外で急速に普及しつつある。			
医療技術名	頭頸部癌再建術、頭蓋底手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 形成外科、食道外科と再建チームを編成し、頭頸部癌に対する拡大切除後の再建手術を行っている。また、脳神経外科と協力し頭蓋底部に浸潤する腫瘍の一塊切除を目的とした頭蓋底手術を行っている。これらの手術は高度な技術、またチーム医療が不可欠であり、特定機能病院として高度な医療を提供していると判断する。			
医療技術名	声帯内自家脂肪注入術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 一側声帯麻痺など発声時の声門閉鎖不全に対する手術で、脂肪組織を採取し精製した後に直達喉頭鏡下に声帯内に脂肪を注射する。術後に嗄声や嚥下障害の改善が期待出来る術式であり、近年普及して来た術式である。			
医療技術名	喉頭形成手術(人工形成材料装置術)	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 甲状軟骨を切開し人工材料を挿入する甲状軟骨形成術と、披裂軟骨を糸で牽引することで声帯を内転する披裂軟骨内転術があり、いずれも発声機能を回復させる手術である。医療者の高度の技術を要し、なかでも甲状軟骨形成術II型は施設基準が設けられている。			
医療技術名	誤嚥防止手術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 喉頭と気管を分離する術式、喉頭を閉鎖あるいは摘出する術式があり、いずれも重度嚥下障害による嚥下性肺炎を防止することができる。医療者の高度な解剖学的知識と、技術習得が必要である。			
医療技術名	人工内耳埋込手術およびハビリテーション	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 高度難聴者に対して人工内耳植込手術を行い、術後リハビリテーションを行うことで聴覚を取り戻すことができる。			
医療技術名	硬性内視鏡を用いた咽喉頭癌の経口的レーザー切除術(TLM)	取扱患者数	28人
当該医療技術の概要 咽頭喉頭の癌を含めた腫瘍性病変に対し、頸部外切開を加えない経口的切除を行っている。また、切除デバイスにCO2レーザーを用い、電気メスよりも熱侵襲の少ない低侵襲手術を行っている。			
医療技術名	声門喉頭癌に対する低侵襲治療(外切開部分切除および亜全摘術)	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 音声機能を失う口頭全摘出術をなるべく行わず、音声機能を温存できる喉頭部分切除術ならびに喉頭亜全摘出術を行っている。			
医療技術名	頭頸部がんに対する分子標的治療(セツキシマブ)、免疫療法(ニボルマブ・ペムブロリズマブ)	取扱患者数	26人
当該医療技術の概要 頭頸部癌に対する新しい分子標的治療薬やチェックポイント阻害剤を単独または化学療法と組み合わせることで頭頸部癌に対する患者さんの生存期間延長に寄与している。			

医療技術名	磁気式ナビゲーション下鼻副鼻腔手術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 磁気式ナビゲーションを用いた高精度の安全性の高い内視鏡下鼻副鼻腔手術を行っている。			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除術	取扱患者数	64人
当該医療技術の概要 腹腔鏡にて肝部分切除、外側区域切除以外にも、肝亜区域、1区域切除、2区域および3区域以上の切除を行うもので、術者の高度な解剖学的知識、技術習得が必要で施設基準が設けられている。			
医療技術名	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 開腹手術に比べ患者の身体的侵襲は非常に少ない。手術適応などの治療方針の検討を高い見識を持って適切に実施することが求められており、施設基準が設けられている。			
医療技術名	胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 肝門部あるいは肝内胆管から膵内胆管まで広範に進展する胆管癌に対する根治術として肝膵同時切除が行われるが、肝切除が葉切除である場合、術式もたらず侵襲は高く、手術手技が進歩した今日においても術後合併症率や手術関連死亡率も極めて高く、高度の技術、周術期管理を必要とし、施設基準が設けられている。			
医療技術名	頭頸部癌再建術、頭蓋底手術	取扱患者数	26人
当該医療技術の概要 頭頸部外科、形成外科、食道外科で再建チームを編成し、頭頸部癌に対する拡大切除後の再建手術を行っている。また、脳神経外科と協力し頭蓋底部に浸潤する腫瘍の一塊切除を目的とした頭蓋底手術を行っている。これらの手術は高度な技術、またチーム医療が不可欠であり、特定機能病院として高度な医療を提供していると判断する。			
医療技術名	心肺停止蘇生後の患者に対する体温管理療法	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 心肺停止蘇生後の患者の脳保護、社会復帰を目指すための脳指向型集中治療である。蘇生直後より高体温を回避し、急性期の積極的体温調整を行うことにより、脳を含む全身の臓器障害の進行防止、積極的な脳波モニタリングと痙攣抑制による脳保護を行う技術。			
医療技術名	体外循環式心肺蘇生法	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 心肺停止患者に対し、通常の心マッサージによる蘇生ではなく、人工心肺装置を用いた心肺蘇生を行うもの。神経学的に良好な予後、社会復帰を得るためには、迅速な導入と処置(no-flow, low-flow時間の短縮)が必要で、かつ出血・血管損傷、感染といった合併症を回避するための知識と技術を必要とする。			
医療技術名	重症外傷患者に対する外傷初期診療と集中治療	取扱患者数	177人
当該医療技術の概要 重症外傷患者の最大の死因は、制御困難な出血と重症頭部外傷である。これらに対し、受傷直後の止血戦略と異型輸血を含む輸血戦略、さらに重症頭部外傷に対する脳保護を考慮した集中治療を行い、重症外傷例の救命と社会復帰を目指すチーム医療技術。			
医療技術名	産科危機的出血に対する産科・救急医連携による急性期治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 前置胎盤や子癇出血等の分娩後危機的出血に対し、産科医と救急医が積極的に連携し、産科的処置とともに大動脈内バルーン閉塞(REBOA)や経カテーテル動脈塞栓術(TAE)、大量輸血プロトコールに基づく異型輸血などを施行し危機的出血から蘇生する技術。			
医療技術名	重症呼吸不全を呈したCOVID19患者に対する呼吸管理	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 重篤な低酸素血症を呈したCOVID19患者に対し、人工呼吸器や人工心肺装置を用いた集中治療、さらには腹臥位を併用した呼吸管理を行い、重篤な呼吸不全からの回復、救命するための集中的・専門的治療を行う技術。			
医療技術名	低酸素療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 肺血流増多型の心不全を呈している新生児に対して低酸素療法を行うことにより肺血管抵抗を増強させ手術待機を可能にする。			

医療技術名	脳保護を目的とした低体温療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 体温を軽度低体温に維持することで心肺停止蘇生後や重症頭部外傷での脳保護をねらう医療技術。 導入期・維持期・復温期を通して沈静下に人工呼吸器管理・循環管理を行うため、 極めの細かい集中治療の装置とマンパワーを必要とする。			
医療技術名	新生児の動脈管開存症に対するカテーテル治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 低体重の新生児における動脈管開存症に対して閉塞栓で動脈管を閉塞させるカテーテル治療。 新生児、小児循環器、麻酔、小児心臓血管外科などがチームとなり、細かい治療管理を必要とする			
医療技術名	ミトコンドリア脳筋症(MELAS)に対するL-アルギニン治療	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 ミトコンドリア脳筋症の一病型であり脳卒中様発作を主徴とする難病MELASの治療については、 世界的にみても有効な治療法は見いだされていない。L-アルギニン療法は、MELASの急性期治療および発作寛解期の 脳卒中様発作の予防治療として効果的である。			
医療技術名	ミトコンドリア脳筋症の遺伝子診断	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 臨床的にミトコンドリア脳筋症を疑われた症例について、久留米大学医学部小児科の研究室でDNAを分離し、 点変異の解析および、16.6kbのミトコンドリアDNAの全塩基解析を行っている。			
医療技術名	ミトコンドリア病のスクリーニングを目的としたGDF15の測定	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要 ミトコンドリア病の診断・重症度判定のバイオマーカーとしてGDF15が有用である。この評価法を用い、 ミトコンドリア病が疑われる患者の検体でGDF15の測定を行い、早期診断・介入が可能となるよう努めている。			
医療技術名	ロボット支援下子宮悪性腫瘍手術	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 子宮悪性腫瘍に対し、ロボット支援技術(Da Vinci Xi)を用いた手術を行う			
医療技術名	腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 子宮体がんに対する傍大動脈リンパ節郭清術を腹腔鏡下に行う。			
医療技術名	重症頭部外傷後の脳浮腫に対する新たなバルビツレート療法	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 重症頭部外傷後の脳浮腫による二次性脳損傷を予防のため、頭蓋内圧降下作用は強力だが 副作用のため使いにくいバルビツレートをstep-down infusion法という投与方法を用いて 血中濃度の急激な上昇を避けて投与することで、安全に管理し良好な頭蓋内圧降下を得る。			
医療技術名	脳内出血患者に対する積極的短時間降圧による血腫増大予防療法	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 脳内出血急性期患者において、造影CT遅延相における造影剤漏出所見であるleakage signが陽性であった場合に、 通常よりも強力な降圧を短時間行うことで、降圧に伴う副作用や合併症を避けて 血腫の増大を予防する治療。神経症状の悪化や緊急手術のリスクを減らす。			
医療技術名	悪性脳腫瘍に対する術中光線力学療法(PDT)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 Eloquent areaの病変のため積極的全摘出が不可能な悪性脳腫瘍の症例に対し、術前に光感受性物質を 経口投与し、可及的摘出後に摘出腔へレーザー照射することで残存させた領域の神経機能温存と 殺腫瘍効果を同時に得る治療。2週間の暗室管理が必要となる。			
医療技術名	正中中部巨大脳腫瘍に対する開頭・経鼻同時手術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 視神経近傍や脳幹腹側の腫瘍では、経鼻内視鏡手術が有用な反面、分葉状で外側進展や 血管の巻き込みを伴う腫瘍では開頭手術に劣る。開頭と経鼻手術を同時に行うことでお互いの死角や操作性を 担保し合い、摘出度を上げ、かつ合併症の発生を予防できる。			

医療技術名	ロボット支援前立腺悪性腫瘍手術	取扱患者数	72人
当該医療技術の概要 限局性前立腺癌に対する主たる根治治療法として従来の開腹あるいは腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術に比較して da Vinciシステムの利用により、さらに精密な手術操作が可能となり、結果として出血量の低減やがん根治性の向上、術後機能(勃起、尿禁制)維持の改善が期待される術式である。			
医療技術名	尿管鏡による上部尿路腫瘍の診断と治療	取扱患者数	47人
当該医療技術の概要 診断がしばしば困難とされる上部尿路腫瘍に対し、細径尿管鏡を用いた組織診断と適応症例に対するレーザー切除術を施行している。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術	取扱患者数	32人
当該医療技術の概要 腹腔鏡手術は開腹手術に比して低侵襲手術であるが、特に腹腔鏡下腎部分切除術では高度な技術が必要であり、術後の腎機能に影響を与える阻血時間(腫瘍切除のために腎動脈を遮断する時間)が延長される。ロボット支援手術は、腹腔鏡手術では困難であった切除・縫合が正確かつ迅速に行えるため阻血時間が短縮され、術後の合併症も軽減される。また腹腔鏡手術では困難であった位置や大きさの腫瘍も切除可能となり、手術適応が拡大すると考えられている。			
医療技術名	ロボット支援下手術(呼吸器)	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 ロボット支援胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術			
医療技術名	ロボット支援下手術(胃)	取扱患者数	45人
当該医療技術の概要 ロボット支援下胃全摘切除術、ロボット支援下噴門側胃切除術、ロボット支援下幽門測胃切			
医療技術名	ロボット支援下手術(大腸)	取扱患者数	26人
当該医療技術の概要 ロボット支援下直腸切除術			
医療技術名	肩関節周囲炎による慢性疼痛に関するカテーテル治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 肩関節周囲炎による激しい痛みが接続する場合に、周囲に血管増生がおこり、それを塞栓することで痛みの軽減を得る治療法。日本で開発された治療法。少数の施設のみで施行されているものである。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	9	56	ペーチェット病	152
2	筋萎縮性側索硬化症	40	57	特発性拡張型心筋症	112
3	脊髄性筋萎縮症	28	58	肥大型心筋症	234
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	26	60	再生不良性貧血	114
6	パーキンソン病	481	61	自己免疫性溶血性貧血	28
7	大脳皮質基底核変性症	24	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	7
8	ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	165
9	シャルコー・マリー・トウス病	16	64	血栓性血小板減少性紫斑病	5
10	重症筋無力症	208	65	原発性免疫不全症候群	19
11	多発性硬化症/視神経脊髄炎	118	66	IgA腎症	242
12	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	38	67	多発性嚢胞腎	111
13	封入体筋炎	6	68	黄色靭帯骨化症	115
14	多系統萎縮症	16	69	後縦靭帯骨化症	309
15	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	79	70	広範脊柱管狭窄症	8
16	ライソゾーム病	41	71	特発性大腿骨頭壊死症	14
17	副腎白質ジストロフィー	1	72	下垂体性TSH分泌亢進症	5
18	ミトコンドリア病	33	73	クッシング病	22
19	もやもや病	81	74	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	30
20	プリオン病	2	75	甲状腺ホルモン不応症	1
21	HTLV-1関連脊髄症	16	76	アジソン病	10
22	特発性基底核石灰化症	1	77	サルコイドーシス	315
23	全身性アミロイドーシス	12	78	特発性間質性肺炎	150
24	遠位型ミオパチー	1	79	肺動脈性肺高血圧症	148
25	神経線維腫症	48	80	慢性血栓性肺高血圧症	28
26	天疱瘡	100	81	リンパ脈管筋腫症	8
27	表皮水疱症	16	82	網膜色素変性症	68
28	膿疱性乾癬(汎発型)	24	83	バッド・キアリ症候群	4
29	スティーヴンス・ジョンソン症候群	11	84	特発性門脈圧亢進症	5
30	中毒性表皮壊死症	1	85	原発性胆汁性肝硬変	153
31	高安動脈炎	20	86	原発性硬化性胆管炎	15
32	巨細胞性動脈炎	18	87	自己免疫性肝炎	163
33	結節性多発動脈炎	19	88	クローン病	176
34	顕微鏡的多発血管炎	59	89	潰瘍性大腸炎	470
35	多発血管炎性肉芽腫症	68	90	慢性特発性偽性腸閉塞症	7
36	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	34	91	ルビンシュタイン・テイビ症候群	2
37	悪性関節リウマチ	19	92	チャージ症候群	5
38	バージャー病	40	93	クリオピリン関連周期熱症候群	1
39	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	94	若年性特発性関節炎	42
40	全身性エリテマトーデス	460	95	TNF受容体関連周期性症候群	2
41	皮膚筋炎/多発性筋炎	247	96	ブラウ症候群	6
42	全身性強皮症	63	97	家族性良性慢性天疱瘡	3
43	混合性結合組織病	84	98	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	157
44	シェーグレン症候群	501	99	特発性後天性全身性無汗症	4
45	成人スチル病	28	100	眼皮膚白皮症	5
46	再発性多発軟骨炎	11	101	肥厚性皮膚骨膜炎	1
47	先天性ミオパチー	8	102	弾性線維性仮性黄色腫	5
48	マリネスコ・シェーグレン症候群	1	103	マルファン症候群	39
49	筋ジストロフィー	31	104	エーラス・ダンロス症候群	4
50	脊髄空洞症	28	105	メンケス病	1
51	脊髄髄膜瘤	20	106	ウィルソン病	28
52	アイザックス症候群	2	107	低ホスファターゼ症	3
53	前頭側頭葉変性症	1	108	ウィリアムズ症候群	7
54	ピッカースタッフ脳幹脳炎	1	109	ATR-X症候群	3
55	痙攣重積型(二相性)急性脳症	1	110	クルーゾン症候群	2

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
111	アレキサンダー病	1	161	アペール症候群	3
112	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	1	162	ファイファー症候群	1
113	アイカルディ症候群	1	163	アントレー・ビクスラー症候群	1
114	片側巨脳症	1	164	歌舞伎症候群	5
115	ドラベ症候群	3	165	多脾症候群	2
116	ミオクロニー欠神てんかん	2	166	無脾症候群	4
117	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	7	167	膵耳腎症候群	1
118	レノックス・ガストー症候群	37	168	ウェルナー症候群	1
119	ウエスト症候群	20	169	コケイン症候群	1
120	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	1	170	プラダー・ウィリ症候群	12
121	ラスマッセン脳炎	1	171	ソトス症候群	1
122	レット症候群	38	172	ヌーナン症候群	8
123	スタージ・ウェーバー症候群	10	173	4p欠失症候群	2
124	結節性硬化症	29	174	5p欠失症候群	4
125	色素性乾皮症	3	175	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	1
126	先天性魚鱗癬	7	176	アンジェルマン症候群	5
127	左心低形成症候群	3	177	スミス・マジニス症候群	1
128	三尖弁閉鎖症	16	178	22q11.2欠失症候群	9
129	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	2	179	総動脈幹遺残症	1
130	ファロー四徴症	107	180	修正大血管転位症	13
131	両大血管右室起始症	32	181	完全大血管転位症	20
132	エプスタイン病	7	182	単心室症	26
133	アルポート症候群	5	183	脳腫黄色腫症	1
134	急速進行性糸球体腎炎	56	184	脂肪萎縮症	5
135	抗糸球体基底膜腎炎	1	185	家族性地中海熱	51
136	紫斑病性腎炎	37	186	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	12
137	間質性膀胱炎(ハンナ型)	11	187	慢性再発性多発性骨髄炎	3
138	オスラー病	3	188	強直性脊椎炎	14
139	閉塞性細気管支炎	2	189	進行性骨化性線維異形成症	1
140	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	4	190	骨形成不全症	20
141	肺胞低換気症候群	4	191	軟骨無形成症	10
142	副甲状腺機能低下症	282	192	リンパ管腫症/ゴーハム病	5
143	偽性副甲状腺機能低下症	6	193	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	5
144	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2	194	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	2
145	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	1	195	先天性赤血球形成異常性貧血	1
146	フェニルケトン尿症	19	196	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	2
147	メーブルシロップ尿症	5	197	ファンコニ貧血	2
148	プロピオン酸血症	5	198	クロンカイト・カナダ症候群	4
149	メチルマロン酸血症	11	199	非特異性多発性小腸潰瘍症	4
150	イソ吉草酸血症	2	200	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	12
151	グルコーストランスポーター1欠損症	1	201	総排泄腔遺残	5
152	グルタル酸血症2型	1	202	先天性横隔膜ヘルニア	6
153	尿素サイクル異常症	39	203	胆道閉鎖症	23
154	筋型糖原病	2	204	アラジール症候群	7
155	進行性ミオクローヌステんかん	5	205	嚢胞性線維症	1
156	先天異常症候群	3	206	IgG4関連疾患	70
157	左肺動脈右肺動脈起始症	4	207	黄斑ジストロフィー	12
158	カルニチン回路異常症	10	208	レーベル遺伝性視神経症	2
159	シトリン欠損症	20	209	遅発性内リンパ水腫	1
160	無虹彩症	4	210	好酸球性副鼻腔炎	46

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	遺伝性自己炎症疾患	2	259		
212	大理石骨病	1	260		
213	先天性気管狭窄症/ 先天性声門下狭窄症	4	261		
214	特発性多中心性キャッスルマン病	2	262		
215			263		
216			264		
217			265		
218			266		
219			267		
220			268		
221			269		
222			270		
223			271		
224			272		
225			273		
226			274		
227			275		
228			276		
229			277		
230			278		
231			279		
232			280		
233			281		
234			282		
235			283		
236			284		
237			285		
238			286		
239			287		
240			288		
241			289		
242			290		
243			291		
244			292		
245			293		
246			294		
247			295		
248			296		
249			297		
250			298		
251			299		
252			300		
253			301		
254			302		
255			303		
256			304		
257			305		
258			306		

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
歯科外来診療環境体制加算2	ハイリスク妊娠管理加算
歯科診療特別対応連携加算	ハイリスク分娩管理加算
特定機能病院入院基本料	精神科救急搬送患者地域連携紹介加算
特定機能病院入院基本料 ADL維持向上等体制加算(注10)	後発医薬品使用体制加算1
救急医療管理加算	病棟薬剤業務実施加算1
超急性期脳卒中加算	データ提出加算
診療録管理体制加算2	入退院支援加算1
医師事務作業補助体制加算1(25対1)	入退院支援加算1に伴う入院時支援加算(注7)
急性期看護補助体制加算25:1(看護補助者5割以上)	入退院支援加算3
急性期看護補助体制加算 注2に掲げる夜間100対1急性期看護補助体制加算	せん妄ハイリスク患者ケア加算
急性期看護補助体制加算 注3に掲げる夜間看護体制加算	精神疾患診療体制加算
看護職員夜間配置加算(12対1配置加算1)	精神科急性期医師配置加算2のロ
療養環境加算	地域医療体制確保加算
重症者等療養環境特別加算	救命救急入院料1
無菌治療室管理加算1	救命救急入院料4
無菌治療室管理加算2	特定集中治療室管理料1
緩和ケア診療加算	特定集中治療室管理料1 早期離床・リハビリテーション加算(注4)
精神科身体合併症管理加算	ハイケアユニット入院医療管理料1
精神科リエゾンチーム加算	総合周産期特定集中治療室管理料
摂食障害入院医療管理加算	新生児治療回復室入院医療管理料
栄養サポートチーム加算	小児入院医療管理料1
医療安全対策加算1	精神科急性期治療病棟入院料1
感染防止対策加算1	
感染防止対策加算1 抗菌薬適正使用支援加算(注3)	
患者サポート体制充実加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
外来栄養食事指導料の注2	精神科退院時共同指導料
慢性維持透析患者外来医学管理料 腎代替療法実績加算(注3)	歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算
糖尿病合併症管理料	歯科治療時医療管理料
がん性疼痛緩和指導管理料	歯科疾患在宅療養管理料の注4に掲げる在宅総合医療管理加算
がん患者指導管理料イ	在宅患者歯科治療時医療管理料
がん患者指導管理料ロ	在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料 遠隔モニタリング加算(注2)
がん患者指導管理料ハ	在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
がん患者指導管理料ニ	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
外来緩和ケア管理料	在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	持続血糖測定器加算
糖尿病透析予防指導管理料	遺伝学的検査
小児運動器疾患指導管理料	骨髄微小残存病変量測定
乳腺炎重症化予防・ケア指導料	BRCA1/2遺伝子検査
婦人科特定疾患治療管理料	がんゲノムプロファイリング検査
腎代替療法指導管理料	先天性代謝異常症検査
外来放射線照射診療料	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
療養・就労両立支援指導料 相談支援加算(注3)	検体検査管理加算(I)
がん治療連携計画策定料	検体検査管理加算(IV)
ハイリスク妊産婦連携指導料1	国際標準検査管理加算
ハイリスク妊産婦連携指導料2	遺伝カウンセリング加算
肝炎インターフェロン治療計画料	遺伝性腫瘍カウンセリング加算
薬剤管理指導料	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
医療機器安全管理料1	胎児心エコー法
医療機器安全管理料2	ヘッドアップティルト試験
医療機器安全管理料(歯科)	人工腎臓 1 慢性維持透析を行った場合1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
人工腎臓 ロ 導入期加算2(注2)	乳房MRI撮影加算
人工腎臓 透析液水質確保加算(注9)	小児鎮静下MRI撮影加算
人工腎臓 慢性維持透析濾過加算(注13)	頭部MRI撮影加算
人工膵臓検査	全身MRI撮影加算
皮下連続式グルコース測定	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
長期継続頭蓋内脳波検査	外来化学療法加算1
脳波検査判断料1	連携充実加算
神経学的検査	無菌製剤処理料
補聴器適合検査	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
ロービジョン検査判断料	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
小児食物アレルギー負荷検査	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
内服・点滴誘発試験	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
センチネルリンパ節生検(単独)	がん患者リハビリテーション料
CT透視下気管支鏡検査加算	リンパ浮腫複合的治療料
経気管支凍結生検法	歯科口腔リハビリテーション料2
有床義歯咀嚼機能検査 2 有床義歯咀嚼機能検査2 ロ 咬合圧測定のみを行う場合	経頭蓋磁気刺激療法
咬合圧検査	精神科作業療法
精密触覚機能検査	認知療法・認知行動療法1
画像診断管理加算3	精神科ショート・ケア「大規模なもの」
遠隔画像診断	精神科デイ・ケア「大規模なもの」
ポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影	抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症 治療指導管理料に限る。)
CT撮影及びMRI撮影	医療保護入院等診療料
冠動脈CT撮影加算	エタノールの局所注入(甲状腺)
血流予備量比コンピュータ断層撮影	エタノールの局所注入(副甲状腺)
外傷全身CT加算	下肢末梢動脈疾患指導管理加算
心臓MRI撮影加算	手術用顕微鏡加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
口腔粘膜処置	上顎骨形成術(骨移動に伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
CAD/CAM冠	上顎骨形成術(骨移動に伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
歯科技工加算	乳がんセンチネルリンパ節加算1(併用法)
皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算)	乳がんセンチネルリンパ節加算2(単独法)
組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
処理骨再建加算	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
椎間板内酵素注入療法	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算(頭蓋内腫瘍摘出術その他のもの 注2)	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるものに限る)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
角膜移植術(内皮移植加算)	経カテーテル大動脈弁置換術
羊膜移植術	胸腔鏡下弁形成術
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	胸腔鏡下弁置換術
緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	経皮的中心心筋焼灼術
網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(電池交換を含む。)
網膜再建術	ペースメーカー移植術 リードレスペースメーカーの場合
人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	両室ヘーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ヘーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
喉頭形成手術(甲状軟骨固定用具を用いたもの)	経皮的循環補助療法(ポンプカテーテルを用いたもの)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
補助人工心臓	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
植込型補助人工心臓(非拍動流型)	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
経皮的下肢動脈形成術	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡下手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	胎児胸腔・羊水腔シャント術
腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	医科点数表第2床第10部手術の通則の19に掲げる手術 乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る)
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	医科点数表第2床第10部手術の通則の19に掲げる手術 子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る)
胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	輸血管理料 I
体外衝撃波胆石破砕術	輸血適正使用加算
腹腔鏡下肝切除術(部分切除及び外側区域切除)	自己生体組織接着剤作成術
腹腔鏡下肝切除術(亜区域切除、1区域切除(外側区域切除を除く。)、2区域切除及び3区域切除以上のもの)	自己クリオプレシピテート作製術(用手法)及び同種クリオプレシピテート作製術
生体部分肝移植術	人工肛門・人工膀胱造設前処置加算
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	歯周組織再生誘導手術
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	歯根端切除手術の注3
体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	レーザー機器加算
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	麻酔管理料(I)
同種死体腎移植術	麻酔管理料(II)
生体腎移植術	放射線治療管理料 放射線治療専任加算
膀胱水圧拡張術	放射線治療管理料 外来放射線治療加算
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	高エネルギー放射線療法

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.
.	.

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	年6回(久留米大学CPC)
剖検の状況	剖検症例数 31例 / 剖検率 8.8%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	新・光-電子相関顕微鏡法による異常形態ミトコンドリア形成過程と微細構造変化の解明	宮園 佳宏	歯科口腔医療センター	1,690,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
2	ヒトOSCCにおける抗PD-1抗体製剤の治療効果と癌幹細胞との関連に関する検討	轟 圭太	歯科口腔医療センター	1,690,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
3	テロシンキナーゼ阻害分子 Sprouty による口腔癌リンパ節転移制御機構の解明	武富 孝治	歯科口腔医療センター	1,473,835	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
5	食道入口部括約機構における自律神経支配様式の解明	深堀 光緒子	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,000,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)
6	声帯粘膜の組織幹細胞システムと幹細胞ニッチ制御の解明	佐藤 公則	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,200,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
7	喉頭乳頭腫における宿主局所免疫応答の解明	栗田 卓	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	600,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)
8	分子的薬治療中の再発・転移頭頸部扁平上皮癌患者における免疫変動の解析	小野 剛治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	500,000	補 公益財団法人臨床研究奨励基金
9	地域に応じた肝炎ウイルス診療連携体制構築の立案に資する研究	鳥村 拓司	消化器内科	1,000,000	補 肝炎等克服政策研究事業(厚生労働省)
10	高ずり応力を伴う循環器難病に随伴する出血性合併症予知法の開発	鳥村 拓司	消化器内科	130,000	補 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(難治性疾患実用化研究事業)
11	肝炎ウイルス感染状況の把握及び肝炎ウイルス排除への方策に資する疫学研究班	鳥村 拓司	消化器内科	1,000,000	補 肝炎等克服政策研究事業(厚生労働省)
12	腸内細菌叢の網羅的解析による肝細胞癌での抗PD-1抗体の治療効果予測因子の探索	鳥村 拓司	消化器内科	1,040,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
13	C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変患者に対するG-CSF動員自家末梢血CD34陽性細胞の経肝動脈投与に関する臨床研究	鳥村 拓司	消化器内科	49,961,600	補 再生医療実用化研究事業(AMED)
14	新規クローン病特異的抗体の対応抗原を探索する	光山 慶一	消化器内科	1,430,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
15	TCF-4 isoform高精度発現解析による肝癌特異的Wntシグナル異常の探求	古賀 浩徳	消化器内科	2,210,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
16	非ウイルス性を含めた肝疾患のトータルケアに資する人材育成等に関する研究	井出 達也	消化器内科	5,000,000	補 肝炎等克服政策研究事業(厚生労働省)
17	新たな手法を用いた肝炎ウイルス検査受検率・陽性者受診率の向上に資する研究	井出 達也	消化器内科	5,000,000	補 肝炎等克服政策研究事業(厚生労働省)
18	マイオカインdecorinによるNASH関連肝癌抑制効果の検討	川口 巧	消化器内科	1,690,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
19	ウイルス性肝疾患を含む代謝関連肝がん発生の病態解明に関する研究	川口 巧	消化器内科	3,640,000	補 肝炎等克服緊急対策研究事業(厚生労働省)
20	肝硬変患者における筋肉-肝臓連関の免疫学的解明に基づく治療戦略の構築	川口 巧	消化器内科	2,600,000	補 肝炎等克服緊急対策研究事業(厚生労働省)
21	非ウイルス性を含めた肝疾患のトータルケアに資する人材育成等に関する研究	川口 巧	消化器内科	500,000	補 肝炎等克服緊急対策研究事業(厚生労働省)
22	NASHに対するCD34陽性細胞製剤による高効率な肝再生促進と発癌抑制療法の開発	中村 徹	消化器内科	1,690,000	補 肝炎等克服政策研究事業(厚生労働省)

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
23	SGLT2阻害剤が肝臓におよぼす影響	中村 徹	消化器内科	1,430,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
24	腫瘍血管特異的なノンコーディングRNAを標的とした新規血管新生抑制治療の確立	岩本 英希	消化器内科	1,040,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)
25	唾液中エクソソーム由来腫瘍特異的microRNAの同定による肺癌早期診断	阪上 尊彦	消化器内科	1,820,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
26	細胞周期依存性PD-L1, Fas/CD95の発現変動を応用した肝癌治療法の確立	田中 俊光	がん集学治療センター	1,300,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
27	口腔内菌叢細菌が腸管免疫・腸内細菌へ与える影響と炎症性腸疾患への関連性の解明	竹田津 英稔	消化器内科	1,430,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
28	NASH治療を目的とした革新的BDDS製剤の創出	増田 篤高	消化器内科	1,820,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
29	脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	佐藤 公昭	整形外科	250,000	補 厚生労働省学術振興会臨床研究事業費補助金
30	独自開発の革新的な増殖制御型アデノウイルスの肉腫への承認申請を目指した医師主導治験	平岡 弘二	整形外科	1,333,800	委 革新的がん医療実用化研究事業(AMED)
31	進行軟部肉腫に対する二次治療における標準治療の開発のための研究	平岡 弘二	整形外科	390,000	委 革新的がん医療実用化研究事業(AMED)
32	腱板断裂モデルを用いた間葉系幹細胞移植の治療効果	後藤 昌史	整形外科	1,300,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
33	増殖組織特徴的遺伝子発現を基盤とした個別化「硝子体内分子切除」治療概念の確立	吉田 茂生	眼科	1,053,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
34	自然炎症局所制御による網膜前駆細胞誘導	吉田 茂生	眼科	130,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
35	増殖性網膜硝子体疾患におけるRGS5の役割解明と革新的分子標的治療の展開	吉田 茂生	眼科	2,080,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
36	PATはどのように生着するのか?~三次元血管構築と免疫細胞群の解析~	山内 大輔	形成外科・顎顔面外科	1,170,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
37	陳旧性顔面神経麻痺に対する咬筋を用いた多方向収縮ベクトルを持つ筋移行術の開発	原 茂	形成外科・顎顔面外科	1,170,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
38	最適な移植脂肪作製を目指して~採取・処理の違いによる細胞ダメージ機序の解明~	小山 麻衣	形成外科・顎顔面外科	1,040,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
39	唾液コルチゾール・MHPGは神経発達症診断・治療評価に有用か?	山下 裕史朗	小児科	1,460,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
40	Rett症候群の病態解明とバイオマーカー確立の基礎的・臨床的研究	山下 裕史朗	小児科	1,460,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
41	思春期健診およびモバイルテクノロジーによる思春期のヘルスプロモーション	永光 信一郎	小児科	1,460,000	委 成育疾患克服等総合研究事業(AMED)
42	母子保健情報を活用した「健やか親子21(第2次)」の推進に向けた研究	永光 信一郎	小児科	1,460,000	補 厚生労働省科学研究費補助金
43	身体的・精神的・社会的(biopshychosocial)に健やかな子どもの発育を促すための切れ目のない保健・医療体制提供のための研究	永光 信一郎	小児科	1,460,000	補 厚生労働省科学研究費補助金

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
44	アクティブラーニングによる親子コミュニケーション促進アプリの開発	永光 信一郎	小児科	1,460,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
45	思春期心身症に対する不登校予防としての教育・医学連携の学校健診システム構築	永光 信一郎	小児科	1,460,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
46	医師主導第2相試験のプロトコル作成研究—レット症候群に対するグレリンの有効性及び安全性の検討—	弓削 康太郎	小児科	1,460,000	委 革新的医療シーズ実用化研究事業(AMED)
47	レット症候群のグレリン投与による治療メカニズムの解明	弓削 康太郎	小児科	1,460,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
48	ICTを活用した小児睡眠障害への予防介入・認知行動療法の開発	石井 隆大	小児科	1,460,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
49	細胞工学並びにオミックス解析を用いたTNF受容体周期性症候群の診療基盤構築	西小森 隆太	小児科	1,000,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
50	疾患特異的iPS細胞とモデルマウスを用いたAicardi-Goutieres症候群の中樞神経系炎症病態解明と治療薬開発・発症前診断の基盤構築	西小森 隆太	小児科	1,720,000	委 難治性疾患実用化研究事業(AMED)
51	原発性免疫不全症・自己炎症性疾患・早期発症型炎症性腸疾患の臨床ゲノム情報を連結した患者レジストリの構築研究	西小森 隆太	小児科	760,000	委 難治性疾患実用化研究事業(AMED)
52	自己炎症性疾患とその類縁疾患の全国診療体制整備、移行医療体制の構築、診療ガイドライン確立に関する研究	西小森 隆太	小児科	4,093,000	補 難治性疾患等政策研究事業(厚生労働省)
53	原発性免疫不全症群の診断基準・重症度分類および診療ガイドラインの確立に関する研究	西小森 隆太	小児科	1,000,000	補 難治性疾患等政策研究事業(厚生労働省)
54	オキシステロールは小児急性肝不全のバイオマーカーとして有用か?	水落 建輝	小児科	910,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
55	小児ウイルス性肝炎患者の病態進展評価及び治療選択に関する研究開発	水落 建輝	小児科	299,000	委 肝炎等克服実用化研究事業(肝炎等克服緊急対策研究事業)(AMED)
56	難治性小児消化器疾患の医療水準向上および移行期・成人期のQOL向上に関する研究	水落 建輝	小児科	200,000	補 難治性疾患政策研究事業(厚生労働省)
57	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症2型に対する世界初・日本発の内科的治療法の確立に向けたブフェニールの医薬品開発研究	水落 建輝	小児科	175,500	委 難治性疾患実用化研究事業(AMED)
58	オキシステロールは胆道閉鎖症のバイオマーカーとして有用か?	安田 亮輔	小児科	1,820,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
59	川崎病冠動脈瘤発症予防のための急性期治療難治例予測診断開発に直結するエビデンス創出研究	須田 憲治	小児科	260,000	委 難治性疾患実用化研究事業(AMED)
60	エピゲノム解析による免疫グロブリン療法抵抗性川崎病の機序解明	高瀬 隆太	小児科	1,300,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
61	導出18誘導心電図を用いた肺高血圧症の診断方法の開発	前田 靖人	小児科	1,900,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
62	新生児低酸素性虚血性脳症の生物学的メーカの実用化に向けた臨床研究	木下 正啓	小児科	300,000	委 日本医療研究開発機構研究費(AMED)
63	内分泌マーカーによる新生児サーカディアンリズム形成過程の解析	木下 正啓	小児科	1,268,538	補 科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)
64	高精度超音波検査による脳微細損傷の診断確率	七種 護	小児科	1,553,246	補 科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
65	GDF15を用いたミトコンドリア病・メタボリック症候群に対する創薬の基盤研究	古賀 靖敏	小児科	1,300,000	補 科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
66	tRNA修飾異常を起因とする疾患を迅速かつ正確に診断可能なシステム研究開発	古賀 靖敏	小児科	1,105,000	委 先進的医療機器・システム等技術開発事業(AMED)
67	「若年性骨髄単球性白血病(JMML)に対する標準的化学療法の確立を目指した第2相臨床試験」の開発	大園 秀一	小児科	100,000	委 日本医療研究開発機構研究費(AMED)
68	大動脈解離:細胞老化が招く組織恒常性破綻のメカニズム解明と治療戦略への応用	青木 浩樹	心臓・血管内科	6,110,000	補 科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(B)
69	超音波制御ウルトラファインバブルで組織標的性を高める薬剤性血管新生療法の開発	佐々木 健一郎	循環器病センター	1,690,000	補 科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
70	住民検診の結果から考察する脂肪酸結合タンパクのメタボリック症候群への臨床応用	榎本 美佳	心臓・血管内科	780,000	補 科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
71	塩分応答性分子SIKを標的とした大動脈解離病態解明	西田 憲史	心臓・血管内科	1,560,000	補 科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
72	血清Thrombospondin-2の多面的作用を疫学的に解明する	足達 寿	心臓・血管内科	1,560,000	補 科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
73	血管内皮機能に着目した大動脈解離病態:STAT3による炎症ゲートウェイの調節	平方 佐季	心臓・血管内科	1,690,000	補 科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
74	心筋障害ストレスに対する繊維芽細胞の活性化制御におけるSTAT/SOCSの役割	安川 秀雄	心臓・血管内科	1,560,000	補 科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
75	病態特異的免疫グロブリンで制御される大動脈解離メカニズムの解明	古荘 文	心臓・血管内科	1,430,000	補 科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
76	一般住民において血清IGF-1が動脈硬化性疾患と認知機能に与える影響	野原 夢	心臓・血管内科	1,690,000	補 科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
77	一般住民における血中PCSK9濃度測定は心血管イベントの予知因子となるか	濱村 仁士	心臓・血管内科	1,560,000	補 科学研究費助成事業(科研費)若手研究
78	大動脈解離におけるチロシナーゼSykによる生体防御機構の解明と治療応用	橋本 洋平	心臓・血管内科	2,080,000	補 科学研究費助成事業(科研費)若手研究
79	超音波処理を施した酸化ストレス耐性細胞を用いる新規血管新生療法の開発	吉川 尚宏	心臓・血管内科	1,300,000	補 科学研究費助成事業(科研費)若手研究
80	右心不全特異的な分子標的療法の創出に向けた基盤研究	伊藤 章吾	心臓・血管内科	2,470,000	補 科学研究費助成事業(科研費)若手研究
81	心筋梗塞後突然死の病態解明 非心筋細胞のJAK/STAT3/SOCS3経路の探求	岡部 浩太	心臓・血管内科	2,080,000	補 科学研究費助成事業(科研費)若手研究
82	免疫の司令塔T細胞に着目した大動脈解離の病態解明と薬物療法の開発	眞島 涼平	心臓・血管内科	2,080,000	補 科学研究費助成事業(科研費)若手研究
83	心外膜肥厚と心筋線維化の機序解明 STAT3/SOCS3系に焦点をあてた解析	楊井 俊之	心臓・血管内科	2,080,000	補 科学研究費助成事業(科研費)若手研究
84	トランスサイレチン心アミロイドーシスにおけるテクネシウム心臓集積活性の意義	緒方 詔子	心臓・血管内科	2,990,000	補 科学研究費助成事業(科研費)若手研究
85	ADMAとホモシステインの両方を測定した人の生命予後と頸動脈厚進展の関連	豊増 謙太	心臓・血管内科	2,080,000	補 科学研究費助成事業(科研費)若手研究

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
86	大動脈解離に特異的な免疫複合体の同定と臨床応用の探求	中尾 英智	心臓・血管内科	2,080,000	補 科学研究費助成事業(科研費)若手研究
87	高ずり応力を伴う循環器難病に随伴する出血性合併症予知法の開発	福本 義弘	心臓・血管内科	130,000	補 難治性疾患実用化研究事業(AMED)
88	拡張相肥大型心筋症を対象とした多施設登録研究	福本 義弘	心臓・血管内科	260,000	補 難治性疾患実用化研究事業(AMED)
89	慢性血栓塞栓性肺高血圧症に関する多施設共同レジストリ研究	福本 義弘	心臓・血管内科	130,000	補 難治性疾患実用化研究事業(AMED)
90	全身性強皮症に伴う皮膚潰瘍に対する自家骨髄単核球移植を用いた血管再生療法に関する研究開発	福本 義弘	心臓・血管内科	377,000	補 再生医療実用化研究事業(AMED)
91	アミロイドーシスに関する調査研究	田原 宣広	循環器病センター	200,000	補 疾病・障害対策研究分野難治性疾患政策研究(厚生労働省)
92	心アミロイドーシスにおける右心機能と血行動態が心イベントに及ぼす影響の解明	本多 亮博	心臓・血管内科	1,000,000	補 令和2年度第40回研究助成(公益財団法人木村記念循環器財団)
93	トランスサイレチン心アミロイドーシスにおけるテクネシウム心臓集積活性の意義～重症度、生命予後、治療効果との関連～	緒方 詔子	心臓・血管内科	1,000,000	補 令和2年度第40回研究助成(公益財団法人木村記念循環器財団)
94	マウスを用いた補体副経路の制御による心室細動抑制効果の検討	伊藤 章吾	心臓・血管内科	2,000,000	補 第18回日本心臓血圧研究振興会榊原記念研究助成金
95	一般住民における身体活動量および就業中の座位時間と総死亡に関する前向き疫学研究	阪上 暁子	心臓・血管内科	1,000,000	補 令和2年度(第47回)大和証券ヘルス財団調査研究助成「医学・医療」分野
96	子宮内膜異型増殖症・子宮体癌妊孕性温存療法に対するメトホルミンの適応拡大にむけた多施設共同医師主導治験	牛嶋 公生	産婦人科	2,470,000	委 臨床研究・治験推進研究事業(AMED)
97	羊水細菌叢の網羅的解析による早産予防治療戦略構築のための基礎的研究	吉里 俊幸	産婦人科	1,430,000	補 科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
98	妊娠28週未満発症の早産期前期破水妊婦に対するアジスロマイシン投与による気管支肺異形成の予防法の開発:第III相,非盲検,ランダム化比較試験	吉里 俊幸	産婦人科	13,000	委 成育疾患克服等総合研究事業(AMED)
99	子宮頸癌IB期-IB期根治手術例における術後放射線と術後化学療法第III相ランダム化比較試験	西尾 真	産婦人科	195,000	委 革新的がん医療実用化研究事業(AMED)
100	新規GKD治療ターゲットとしての制御性B細胞-IL-10 system	深水 圭	腎臓内科	910,000	補 科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
101	母子保健からはじまるGKD予防のモデル地区をめざして	甲斐田 裕介	腎臓内科	650,000	補 科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
102	Fabry病患者由来iPS細胞を用いた新規疾患モデル作製および細胞移植療法開発	那須 誠	腎臓内科	1,950,000	補 科学研究費助成事業(科研費)若手研究(B)
103	エリスロポエチン受容体を介した急性腎障害の新規治療法	中山 陽介	腎臓内科	1,820,000	補 科学研究費助成事業(科研費)若手研究(B)
104	SGLT1/アデノシン経路を介した糸球体過剰濾過改善についての検討	児玉 豪	腎臓内科	1,690,000	補 科学研究費助成事業(科研費)若手研究(B)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
105	ミトコンドリアダイナミクスが制御するATPシグナル	野村 政壽	内分泌代謝内科	1,417,786	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
106	細胞内コルチゾール過剰作用による脂肪・骨格筋・骨の老化進展機構の解明	蘆田 健二	内分泌代謝内科	1,711,838	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
107	生活習慣病における自律神経活動の特徴とそれに関連する因子の検討	岩田 慎平	内分泌代謝内科	1,067,119	補 科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
108	ポスターフリーラジカルをターゲットにした新規脳虚血治療の開発	森岡 基浩	脳神経外科	900,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
109	脳循環変化に伴う有害事象を予測する、新たな術中モニタリングシステムの開発	河野 隆幸	脳神経外科	1,400,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
110	新たな嗅粘膜刺激電極を用いた嗅覚モニタリングおよび高次脳機能障害への治療応用	坂田 清彦	脳神経外科	1,000,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
111	血行再建併用intensive cell supplyによる脳梗塞治療法の確立	折戸 公彦	脳神経外科	1,100,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
112	Cellm-001による初発膠芽腫治療効果無作為比較対照試験	中村 英夫	脳神経外科	1,066,000	委 橋渡し研究戦略的推進プログラム シーズC (AMED)
113	進行性尿路がんに対する次世代個別化がんペプチドワクチン療法の開発	末金 茂高	泌尿器科	1,200,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
114	マウスを用いた男性生殖器における嗅覚化学感覚細胞の組織内分布と解剖学的特徴の解明	上村 慶一郎	泌尿器科	1,200,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
115	漢方薬と抗PD-1抗体併用による抗腫瘍効果と腸内細菌叢の変化に関する検討	植田 浩介	泌尿器科	1,200,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)
116	従来のデスマグレイン抗体と異なるデスマコリン抗体からアプローチする天疱瘡病態解明	古賀 浩嗣	皮膚科	910,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
117	表皮角化細胞が血球へ：表皮に内在する新規万能幹細胞に関する基礎的研究	辛島 正志	皮膚科	1,430,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
118	DREADOシステムを利用した脊髄後角HCN4をターゲットとした疼痛治療開発	大下 健輔	麻酔科	1,500,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
119	新規サイトカインIL-38の機能解明の基盤研究と新規治療薬の開発	富永 正樹	呼吸器・神経・膠原病内科	910,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
121	CO中毒による高次脳機能障害患者の経年的変化や環境変化に対応した包括的リハビリテーション・支援モデルに関する研究	松瀬 博夫	整形外科	11,997,000	補 労災疾病臨床研究事業費(厚生労働省)
122	慢性腰痛の感受性改善効果に有効な理学療法の開発ー有酸素運動と電気刺激の併用効果ー	松瀬 博夫	整形外科	130,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
123	直腸癌局所再発に対する標準治療確立のための研究開発	赤木 由人	外科	400,000	補 革新的がん医療実用化研究事業(AMED)
124	無荚膜型インフルエンザ菌による侵襲性感染症の病態解析	後藤 憲志	感染制御科	1,040,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
125	子宮頸癌の化学放射線療法におけるPD-L1とCD8陽性T細胞の動態研究	宮田 裕作	放射線科	700,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)
126	高静磁場MRIに適用可能な低磁性生体用形状記憶・超弾性合金の開発	田上 秀一	放射線科	350,000	補 科学研究費助成事業(科研費) 挑戦的研究(萌芽)

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
127	肺・肝以外の諸臓器における定位放射線治療の効果と安全性の評価	淡河 恵津世	放射線腫瘍センター	30,000	補 科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(B)

計127件

(注)

- 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭者の 特定機能病院における所 属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Saku K, Tahara N, Takaseya T, et al.	外科	Pathological Role of Receptor for Advanced Glycation End Products in Calcified Aortic Valve Stenosis	Journal of the American Heart Association 9(13). 2020 Jul; e015261	Original Article
2	Takagi K, Tayama E.	外科	Hormone replacement therapy for open heart surgery in a patient with panhypopituitarism and diabetes insipidus	Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery 31(3). 2020 Sep; 413-414	Case report
3	Takagi K, Arinaga K, Takaseya T, et al.	外科	Aortic valve replacement with or without concomitant coronary artery bypass grafting in very elderly patients aged 85 years and older	Heart and Vessels 35(10):2020 Oct:1409-1418	Original Article
4	Kanamoto R, Aoki H, Furusho A, et al.	外科	The Role of Syk in Inflammatory Response of Human Abdominal Aortic Aneurysm Tissue	Annals of vascular diseases 13(2):2020 Jun:151-157	Original Article
5	Kanamoto R, Hiromatsu S, Anegawa T, et al.	外科	Use of Edoxaban for the Treatment of Heparin-Induced Thrombocytopenia	Case Reports in Vascular Medicine 2020 Sep; 2367095	Case report
6	Saku K, Tahara N, Fukumoto Y, et al.	外科	Isolated right ventricular metastasis of hepatocellular carcinoma induced by epithelial-mesenchymal transition	European Heart Journal Case Reports 5(2): 2020 Dec: online	Case report
7	Kono T, Takagi K, Tayama E.	外科	Minimally invasive cardiac surgery in a patient with osteopetrosis and symptomatic mitral regurgitation	Journal of Cardiac Surgery 36(2): 2021 Feb:709-711	Case report
8	Tetsushi Kinugasa, Sachiko Nagasu, Kenta muroya, et al.	外科	Analysis of risk factors for anastomotic leakage after lower rectal Cancer resection, including drain type: a retrospective single-center study	BMC Gastroenterol 20, 2020 Sep (オンライン)	Original Article
9	Uhi Toh, Sayaka Sakurai, Shuko S, et al.	外科	Early phase II study of mixed 19-peptide vaccine monotherapy for refractory triple-negative breast cancer	Cancer Science, 111 (8); 2760-2769, 2020 Jun	Original Article
10	Fujiyoshi K, Vyrinen JP, Borowsky J, et al.	外科	Tumour budding, poorly differentiated clusters, and T-cell response in colorectal cancer	EBioMedicine, 57:102860, 2020 Jul (オンライン)	Original Article
11	Iwanaga J, Clifton W, Dallapiazza R, et al.	歯科口腔医療センター	The pterygospinous and pterygoalar ligaments and their relationship to the mandibular nerve: Application to a better understanding of various forms of trigeminal neuralgia	Annals of Anatomy - Anatomischer Anzeiger 2020 May; 229:151466	Others
12	Kinuko Ogata, Ryuichiro Tanoue, Hiroyuki Mori, et al.	歯科口腔医療センター	Effect of mandibular setback surgery on the sleep architecture and respiratory function (Clinical observations)	Oral Science International 2020 Sep:18(3)163-168	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	本部署名の 特定機能病院における所 属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
13	Iwanaga J, Shiromoto K, Kato T, et al.	歯科口腔医療センター	Anatomy of the mandibular canal and surrounding structures Part II: Cancellous pattern of the mandible	Annals of Anatomy - Anatomischer Anzeiger 2020 Nov;232:151583	Others
14	Iwanaga J, Katafuchi M, Matsushita Y, et al.	歯科口腔医療センター	Anatomy of the mandibular canal and surrounding structures: Part I: Morphology of the superior wall of the mandibular canal	Annals of Anatomy - Anatomischer Anzeiger 2020 Nov;232:151580	Others
15	Iwanaga J, Watanabe K, Kikuta S, et al.	歯科口腔医療センター	Anatomical study of the incisivus labii superioris and inferioris muscles in non-human primates	The Anatomical Record 2021 Feb;304(2)366-371	Original Article
16	Takanaru Taketomi, Ken Nakamura, Yui Teratani, et al.	歯科口腔医療センター	Solitary Neurofibroma of the Hard Palate: A Case Report and Literature Review	American Journal of Case Report 2021Feb; e929674	Review
17	Iwanaga J, Kunisada Y, Masui M, et al.	歯科口腔医療センター	Comprehensive review of lower third molar management: A guide for improved informed consent	Clinical Anatomy 2021 Mar;34 (2) 224-243	Review
18	Kiminori Sato, Shun-ichi Chitose, Kiminobu Sato, et al.	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	Histopathology of maxillary sinus mucosa with odontogenic maxillary sinusitis	Laryngoscope Investig Otolaryngol 5:205-209, 2020 Apr	Original Article
19	Shun-ichi Chitose, Kiminori Sato, Mioko Fukahori, et al.	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	Lateral pharyngeal flap with a double pedicle for repair of unilateral velopharyngeal insufficiency	Auris Nasus Larynx 47:245-249, 2020 Apr	Original Article
20	Takeharu Ono, Koichi Azuma, Akihiko Kawahara, et al.	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	Predictive value of CD8/FOXP3 ratio combined with PD-L1 expression for radiosensitivity in patients with squamous cell carcinoma of the larynx receiving definitive radiation therapy	Head & Neck 42:3518-3530, 2020 Aug	Original Article
21	Takeharu Ono, Koichi Azuma, Akihiko Kawahara, et al.	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	Changes in immune parameters between pre-treatment and recurrence after (chemo)radiation therapy in patients with head and neck cancer	Sci Rep 10:11973, 2020 Jul (オンライン)	Original Article
22	Kiminori Sato, Shun-ichi Chitose, Kiminobu Sato, et al.	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	Sleep-related deglutition and respiratory phase patterns in the aged with obstructive sleep apnea under CPAP therapy	Acta Otolaryngol 140:861-868, 2020 Oct	Original Article
23	Ryota Mihashi, Shun-ichi Chitose, Fumihiko Sato, et al.	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	Endoscopic sealing with a polyglycolic acid sheet for restoration of vocal fold mucosa in dogs	Laryngoscope 130:E436-E443, 2020 Jul	Original Article
24	Kiminori Sato, Shun-ichi Chitose, Fumihiko Sato, et al.	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	Heterogeneity and hierarchy of the tissue stem cells in the human newborn vocal fold mucosa	Laryngoscope Investig Otolaryngol 5:903-910, 2020 Sep	Original Article
25	Tomohiro Kurahachi, Naoki Hashizume, Kimio Asagiri, et al.	小児外科	The management and outcome of pediatric blunt chest-abdominal injuries	Pediatrics International 62(7):834-839, 2020 Jul	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭者名の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
26	Naoki Hashizume, Yoshiaki Tanaka, Kimio Asagiri, et al.	小児外科	Perioperative reactive oxygen species in infants with biliary atresia A retrospective observational study	Medicine 99:31 (e21332), 2020 Jul (オンライン)	Original Article
27	Fukahori S, Kawahara H, Oyama T, et al.	小児外科	Japanese Pediatric Impedance Working Group (Japanese-PIG): Standard protocol devised by the Japanese Pediatric Impedance Working Group for combined multichannel intraluminal impedance-pH measurements in children	Surg Today 50(7):664- 671, 2020 Jul	Original Article
28	Naoki Hashizume, Masahiro Ohtaki, Kouei Nihei, et al.	小児外科	Laparoscopic surgery for urachal remnants in pubescent children: a case series	Surgical Case Reports 6:120, 2020 Jun	Case report
29	Naoki Hashizume, Takato Aiko, Suguru Fukahori, et al.	小児外科	Benign mesenteric lipomatous tumor in a child: a case report and literature review	Surgical Case Reports 6:243, 2020 Sep	Case report
30	Naoki Hashizume, Saki Sakamoto, Suguru Fukahori, et al.	小児外科	Gastrointestinal stromal tumor in perforated Meckel's diverticulum: a case report and literature review	Surgical Case Reports 6:265, 2020 Oct	Case report
31	Fukahori S, Sakamoto S, Hashizume N, et al.	小児外科	Laparoscopic identification of combined pediatric femoral hernia and ruptured abdominal cyst of the canal of Nuck: A report of an extremely rare case	Asian J Endosc Surg . 2021 Jul;14(3):557-560. doi: 10.1111/ases.12866. Epub 2020 Sep 13.	Case report
32	Iwamoto H, Suzuki H, Shimose S, et al.	消化器内科	Weekends-Off Lenvatinib for Unresectable Hepatocellular Carcinoma. Improves Therapeutic Response and Tolerability toward Adverse Events	Cancers. 2020 Apr 12: 1010 (オンライン)	Original Article
33	Shimose S, Iwamoto H, Niizeki T, et al.	消化器内科	Clinical Significance of Adverse Events for Patients with Unresectable Hepatocellular Carcinoma Treated with Lenvatinib: A Multicenter Retrospective Study	Cancers. 2020 Jul 12: 1867 (オンライン)	Original Article
34	Sakemi R, Mitsuyama K, Morita M, et al.	消化器内科	Altered serum profile of the interleukin-22 system in inflammatory bowel disease	Cytokine. 2020 Dec 136: 155264 (オンライン)	Original Article
35	Nakano M, Kuromatsu R, Niizeki T, et al.	消化器内科	Primary Treatment with Molecular-Targeted Agents for Hepatocellular Carcinoma: A Propensity Score-matching Analysis	Hepatology Communications. 2020 Jun 4: 1218-1228	Original Article
36	Yamasaki H, Mitsuyama K, Yoshioka S, et al.	消化器内科	Leukocyte Apheresis Using a Fiber Filter Suppresses Colonic Injury Through Calcitonin Gene-Related Peptide Induction	Inflammatory bowel diseases. 2020 Apr 11: 709-719	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭者名の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
37	Nakano D, Kawaguchi T, Tsutsumi T, et al.	消化器内科	Alteration of the serum myostatin level following L-carnitine treatment in patients with chronic liver disease: A pilot study	International Journal of Functional Nutrition. 2020 Aug 1: 1-7	Original Article
38	Masuda A, Nakamura T, Abe M, et al.	消化器内科	Promotion of liver regeneration and antifibrotic effects of the TGFbeta receptor kinase inhibitor galunisertib in CCl4treated mice	International Journal of Molecular Medicine. 2020 Jul 46: 427-438	Original Article
39	Morita T, Mitsuyama K, Yamasaki H, et al.	消化器内科	Gene Expression of Transient Receptor Potential Channels in Peripheral Blood Mononuclear Cells of Inflammatory Bowel Disease Patients	Journal of Clinical Medicine. 2020 Aug 9: 2643 (オンライン)	Original Article
40	Takahashi A, Abe M, Yasunaka T, et al.	消化器内科	Quality of life among patients with autoimmune hepatitis in remission	Medicine. 2020 Oct 99: e22764 (オンライン)	Original Article
41	Shimose S, Kawaguchi T, Iwamoto H, et al.	消化器内科	Controlling Nutritional Status (CONUT) Score is Associated with Overall Survival in Patients with Unresectable Hepatocellular Carcinoma Treated with Lenvatinib: A Multicenter Cohort Study	Nutrients. 2020 Apr 12: 1076 (オンライン)	Original Article
42	Shigeto K, Kawaguchi T, Koya S, et al.	消化器内科	Profiles Combining Muscle Atrophy and Neutrophil-to-Lymphocyte Ratio Are Associated With Prognosis of Patients With Stage IV Gastric Cancer	Nutrients. 2020 Jun 12: 1884 (オンライン)	Original Article
43	Shimose S, Iwamoto H, Tanaka M, et al.	消化器内科	Increased Arterio-Portal Shunt Formation after Drug-Eluting Beads TACE for Hepatocellular Carcinoma	Oncology. 2020 May 18: 1-8	Original Article
44	Shimose S, Kawaguchi T, Iwamoto H, et al.	消化器内科	Indication of suitable transarterial chemoembolization and multikinase inhibitors for intermediate stage hepatocellular carcinoma	Oncology Letters. 2020 Apr 19: 2667-2676	Original Article
45	Shimose S, Kawaguchi T, Tanaka M, et al.	消化器内科	Lenvatinib prolongs the progression-free survival time of patients with intermediate-stage hepatocellular carcinoma refractory to transarterial chemoembolization: A multicenter cohort study using data mining analysis	Oncology Letters. 2020 Jun 20: 2257-2265	Original Article
46	Nakano D, Kawaguchi T, Iwamoto H, et al.	消化器内科	Effects of canagliflozin on growth and metabolic reprogramming in hepatocellular carcinoma cells: Multi-omics analysis of metabolomics and absolute quantification proteomics (IMPAQT)	PLoS One. 2020 Apr 15: e0232283 (オンライン)	Original Article
47	Shindo Y, Mitsuyama K, Yamasaki H, et al.	消化器内科	Safety and efficacy of single-needle leukocyte apheresis (LCAP) for treatment of ulcerative colitis	Therapeutic Apheresis and Dialysis. 2020 Oct 24: 503-510	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所 属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
48	Sano T, Amano K, Ide T, et al.	消化器内科	Short-term efficacy after switching from adefovir dipivoxil and tenofovir disoproxil fumarate therapy to tenofovir alafenamide for chronic hepatitis B	Biomedical Reports. 2021 Jan 14: 12 (オンライン)	Original Article
49	Shimose S, Iwamoto H, Tanaka M, et al.	消化器内科	Alternating Lenvatinib and Trans-Arterial Therapy Prolongs Overall Survival in Patients with Inter-Mediate Stage HepatoCellular Carcinoma: A Propensity Score Matching Study	Cancers. 2021 Jan 13: 160 (オンライン)	Original Article
50	Iwamoto H, Niizeki T, Nagamatsu H, et al.	消化器内科	Survival Benefit of Hepatic Arterial Infusion Chemotherapy over Sorafenib in the Treatment of Locally Progressed Hepatocellular Carcinoma	Cancers. 2021 Feb 13: 646 (オンライン)	Original Article
51	Fukunaga S, Nakano D, Kawaguchi T, et al.	消化器内科	Non-Obese MAFLD Is Associated with Colorectal Adenoma in Health Check Examinees: A Multicenter Retrospective Study	International journal of molecular sciences. 2021 Mar 22: 5462 (オンライン)	Original Article
52	Shirono T, Niizeki T, Iwamoto H, et al.	消化器内科	Therapeutic Outcomes and Prognostic Factors of Unresectable Intrahepatic Cholangiocarcinoma: A Data Mining Analysis	Journal of Clinical Medicine. 2021 Mar 10: 987 (オンライン)	Original Article
53	Yoshimura T, Mitsuyama K, Sakemi R, et al.	消化器内科	Evaluation of Serum Luecine-rich Alpha-2 Glycoprotein as a New Inflammatory Biomarker of Inflammatory Bowel Disease	Mediators of Inflammation. 2021 Feb 8825374: 1-10	Original Article
54	Fukahori M, Shibata M, Hamauchi S, et al.	消化器内科	A retrospective cohort study to investigate the incidence of cancer-related weight loss during chemotherapy in gastric cancer patients	Supportive Care in Cancer. 2021 Jan 29: 341-348	Original Article
55	Hiroki Kanno, Hisamune Sakai, Toru Hisaka, et al.	外科	A case of reactive lymphoid hyperplasia of the liver in a patient with autoimmune hepatitis.	Surgical Case Reports 2020 May 4:6(1):90 (オンライン)	Case report
56	Hiroki Kanno, Hiroaki Misyoshi, Naohiro Yoshida, et al.	外科	Differences in the immunosurveillance pattern associated with DNA mismatch repair status between right-sided and left-sided colorectal cancer	Cancer Science 2020 Aug:111(8):3032-3044.	Original Article
57	Yuichi Goto, Toru Hisaka, Hisamune Sakai, et al.	外科	Salvage Surgery for Initially Unresectable Locally Advanced Hepatocellular Carcinoma Downstaged by Hepatic Arterial Infusion Chemotherapy	Anticancer Research 2020 Aug:40(8):4773-4777	Original Article
58	Toru Hisaka, Hisamune Sakai, Tohihiro Sato, et al.	外科	Quercetin Suppresses Proliferation of Liver Cancer Cell Lines In Vitro	Anticancer Research 2020 Aug:40(8):4695-4700.	Original Article
59	Satoki Kojima, Toru Hisaka, Ryuta Midorikawa, et al.	外科	Prognostic Impact of Desmoplastic Reaction Evaluation for Intrahepatic Cholangiocarcinoma	Anticancer Research 2020 Aug:40(8):4749-4754	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所 属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
60	Hiroki Kanno, Atsushi Yoshida, Yuichi Goto, et al.	外科	A case of hepatic venous outflow obstruction caused by migration of the remnant liver into the subphrenic space after extended posterior sectionectomy of the liver	International Journal of Surgery Case Reports 2020 Oct; 76:297-300 (オ ンライン)	Case report
61	Shimazaki T, Yamada K, Sato K, et al.	整形外科	Primary treatment of atlanto- axial rotatory fixation in children: a multicenter, retrospective case series of 125 cases	J Neurosurg Spine. 2020 Dec (オンライン)	Original Article
62	Matsugaki T, Shibata H, Matsubara T	整形外科	Ideberg type III glenoid fractures are caused by indirect force: A report of four cases.	Trauma Case Reports 30:10363, 2020 Dec (オン ライン)	Original Article
63	Iwanaga S, Hashida R, Takano Y, et al.	整形外科	Hybrid Training System Improves Insulin Resistance in Patients with Nonalcoholic Fatty Liver Disease: A Randomized Controlled Pilot Study	The Tohoku Journal of Experimental Medicine. 2020 Sep; 252: 1: 23-32	Original Article
64	Hara K, Matsuse H, Hashida R, et al.	整形外科	The effect of rotator cuff physical exercise combined with electrically stimulated antagonist on shoulder rotator cuff strengthThe effect of rotator cuff physical exercise combined with electrically stimulated antagonist on shoulder rotator cuff strength	Journal of Orthopaedic Science: 2020 Dec	Original Article
65	Ishibashi K, Haruta M, Ishibashi Y, et al.	眼科	Four-year outcomes of intravitreal aflibercept treatment for neovascular age- related macular degeneration using a treat-and-extend regimen in Japanese patients.	Ther Adv Ophthalmol. 13:1-5, 2021 Jan	Original Article
66	Haruta M, Tsuji T, Yoshida S	眼科	Ultra-widefield OCT in retinopathy of autoimmune polyendocrine syndrome type 1.	Ophthalmol Retina. 5(1):9, 2021 Jan (オンラ イン)	Others
67	Haruta M, Taguchi C, Yamakawa R	眼科	Macular hole formation after pars plana vitrectomy for primary vitreoretinal lymphoma.	Retin Cases Brief Rep. 14(3): 243-246, 2020 Summer	Case report
68	Monden Y, Nagashima C, Yokote N, et al.	眼科	Management of recurrent pterygium with severe symblepharon using mitomycin C, double amniotic membrane transplantation, cryopreserved limbal allograft, and a conjunctival flap.	Int Med Case Rep J. 13:201-209, 2020 May	Case report
69	Haruta M, Handa S, Yoshida S	眼科	Papillomacular retinoschisis associated with glaucoma: Response to topical carbonic anhydrase.	Am J Ophthalmol Case Rep. 19:100741, 2020 May (オン ライン)	Case report
70	Migita H, Rikimaru H, Rikimaru-Nishi Y, et al.	形成外科・顎顔面外科	Analysis of Scars and Keloids by Focused Ion Beam/Scanning Electron Microscopy	Annals of Plastic Surgery. 2020 Apr ; 84(4): 379-384	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	著者名の 特定機能病院における所 属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
71	Yamauchi D, Rikimaru H, Rikimaru-Nishi Y, et al.	形成外科・顎顔面外科	Successful Treatment of Full Thickness Frontal Skull Bone Defect With Dermal Fat Grafting and Artificial Bone Grafts	The Journal of Craniofacial Surgery. 2020 Jul/Aug : 31(5): 1279-1283	Original Article
72	Shimomura G, Nagamitsu S, Suda M, et al.	小児科	Association between problematic behaviors and individual/environmental factors in difficult children.	Brain Dev. 2020 Jun;42(6):431-437.	Original Article
73	Yuge K, Nagamitsu S, Ishikawa Y, et al.	小児科	Long-term melatonin treatment for the sleep problems and aberrant behaviors of children with neurodevelopmental disorders.	BMC Psychiatry. 2020 Sep 10;20(1):445. (オンライ ン)	Original Article
74	Suda M, Nagamitsu S, Obara H, et al.	小児科	Association between children's sleep habits and problematic behaviors at age 5.	Pediatr Int. 2020 Oct;62(10):1189-1196.	Original Article
75	Nagamitsu S, Mimaki M, Koyanagi K, et al.	小児科	Prevalence and associated factors of suicidality in Japanese adolescents: results from a population-based questionnaire survey.	BMC Pediatr. 2020 Oct 6;20(1):467. (オンライ ン)	Original Article
76	Saikusa T, Kawaguchi M, Tanioka T, et al.	小児科	Meaningful word acquisition is associated with walking ability over 10 years in Rett syndrome.	Brain Dev. 2020 Nov;42(10):705-712.	Original Article
77	Habukawa C, Nagamitsu S, Koyanagi K, et al	小児科	Utility of the QTA30 in a school medical checkup for adolescent students.	Pediatr Int. 2020 Nov;62(11):1282-1288.	Original Article
78	Habukawa C, Nagamitsu S, Koyanagi K, et al	小児科	Late bedtime reflects QTA30 anxiety symptoms in adolescents in a school checkup.	Pediatr Int. 2020 Nov 20. (オンライン)	Original Article
79	Yuhei Tanaka, Tomohiro Oishi, Sahoko Ono, et. al	小児科	Epidemiology of urinary tract infections in children: Causative bacteria and antimicrobial therapy	Pediatr Int. 2021 Feb (オンライン)	Original Article
80	Yoshimoto H, Maeda Y, Inoue T, et al	小児科	Intracardiac Echocardiography as a Guide for Transcatheter Closure of Patent Ductus Arteriosus.	J Interv Cardiol. 2020 Jul 30;2020:5147193 (オンライ ン)	Original Article
81	Takaki Y, Mizuochi T, Takei H, et al.	小児科	Urinary and serum oxysterols in children: developmental pattern and potential biomarker for pediatric liver disease.	Sci Rep. 2020 Apr 21;10(1):6752. (オンライ ン)	Original Article
82	Sakaguchi H, Shirakawa T, Mizuochi T, et al.	小児科	Ischemic colitis in an infant with constipation treated with stimulant laxative.	JGH Open. 2020 May 25;4(5):1012-1013.	Case report
83	Mizuochi T, Arai K, Kudo T, et al.	小児科	Antibodies to Crohn's disease peptide 353 as a diagnostic marker for pediatric Crohn's disease: a prospective multicenter study in Japan.	J Gastroenterol. 2020 May;55(5):515-522.	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	著者等の 特定機能病院における所 属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
84	Uchida T, Suzuki T, Kikuchi A, et al.	小児科	Comprehensive Targeted Sequencing Identifies Monogenic Disorders in Patients With Early-onset Refractory Diarrhea.	J Pediatr Gastroenterol Nutr. 2020 Sep;71(3):333-339.	Original Article
85	Mizutani A, Sabu Y, Naoi S, et al.	小児科	Assessment of Adenosine Triphosphatase Phospholipid Transporting 8B1 (ATP8B1) Function in Patients With Cholestasis With ATP8B1 Deficiency by Using Peripheral Blood Monocyte-Derived Macrophages	Hepatol Commun. 2020 Sep 26;5(1):52-62.	Original Article
86	Konishi KI, Mizuochi T, Takeuchi I, et al.	小児科	Congenital chloride diarrhea in a Japanese neonate with a novel SLC26A3 mutation.	Pediatr Int. 2020 Nov;62(11):1294-1296.	Original Article
87	Konishi KI, Mizuochi T, Honma H, et al.	小児科	A novel de novo SLC26A3 mutation causing congenital chloride diarrhea in a Japanese neonate.	Mol Genet Genomic Med. 2020 Nov;8(11):e1505. (オンライン)	Case report
88	Kakiuchi T, Mizuochi T, Koji A, et al.	小児科	Long-term endoscopic findings in pediatric primary intestinal lymphangiectasia.	Glin Case Rep. 2020 Dec 5;9(2):1029-1030.	Case report
89	Fujisaki T, Matsuishi T, Kamizono J, et al.	小児科	Crohn's disease and chronic recurrent multifocal osteomyelitis in a Japanese boy.	Pediatr Int. 2021 Jan;63(1):115-117.	Case report
90	Konishi KI, Mizuochi T, Takei H, et al.	小児科	A Japanese prospective multicenter study of urinary oxysterols in biliary atresia.	Sci Rep. 2021 Mar 2;11(1):4986. (オンライン)	Original Article
91	Koga Y, Povalko N, Inoue E, et al.	小児科	A new diagnostic indication device of a biomarker growth differentiation factor 15 for mitochondrial diseases: From laboratory to automated inspection	Journal of inherited metabolic disease. 2021 Mar;44(2):358-66.	Original Article
92	Sugiyama Y, Tahara N, Bekki M, et al.	心臓・血管内科	Long-term survival outcome for pre-capillary pulmonary hypertension at a Japanese single center.	Can J Physiol Pharmacol. 2020 Sep;98(9):644-652.	Original Article
93	Tahara N, Dobashi H, Fukuda K, et al.	循環器病センター	Long-term treatment of pulmonary arterial hypertension with macitentan in Japanese patients.	Curr Med Res Opin. 2020 Jun;36(6):921-928.	Original Article
94	Yamamoto M, Adachi H, Enomoto M, et al.	心臓・血管内科	Lower albumin levels are associated with frailty measures, trace elements, and an inflammation marker in a cross-sectional study in Tanushimaru.	Environ Health Prev Med. 2021 Feb 19;26(1):25. b (オンライン)	Original Article
95	Sakaue A, Adachi H, Enomoto M, et al.	心臓・血管内科	Association between physical activity, occupational sitting time and mortality in a general population: An 18-year prospective survey in Tanushimaru, Japan.	Eur J Prev Cardiol. 2020 May;27(7):758-766.	Original Article
96	Adachi H, Enomoto M, Fukami A, et al.	心臓・血管内科	Trends in nutritional intake and coronary risk factors over 60 years among Japanese men in Tanushimaru.	Heart Vessels. 2020 Jul;35(7):901-908.	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	著者等の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
97	Ohshima H, Adachi H, Enomoto M, et al.	心臓・血管内科	Association between growth hormone and hypertension in a general population.	Hypertens Res. 2020 Dec;43(12):1430-1436.	Original Article
98	Hayashi-Hori M, Aoki H, Matsukuma M, et al.	心臓・血管内科	Therapeutic effect of rapamycin on aortic dissection in mice.	Int J Mol Sci. 2020 May 8;21(9):3341. (オンライン)	Original Article
99	Takahashi J, Yamamoto M, Yasukawa H, et al.	心臓・血管内科	Interleukin-22 directly activates myocardial STAT3 (Signal Transducer and Activator of Transcription-3) signaling pathway and prevents myocardial ischemia reperfusion injury.	J Am Heart Assoc. 2020 Apr 21;9(8):e014814. (オンライン)	Original Article
100	Nakayoshi T, Ueno T	心臓・血管内科	A new beginning of aortic angioscopy in diagnosis and treatment in acute aortic syndrome?	J Cardiol. 2020 Jul;76(1):58-59.	Original Article
101	Sasaki K, Kakuma T, Sasaki M, et al.	循環器病センター	The prevalence of sarcopenia and subtypes in cardiovascular diseases, and a new diagnostic approach.	J Cardiol 2020 Sep;76(3):266-272.	Original Article
102	Ishimatsu T, Sasaki K, Kakuma T, et al.	心臓・血管内科	Serum interleukin-18 levels as a predictor for patients with genetic dysfunction of cytochrome P450 2C19 in dual antiplatelet therapy with clopidogrel.	J Cardiol. 2020 Nov;76(5):479-486.	Original Article
103	Tahara N, Nitta Y, Bekki M, et al.	循環器病センター	Two-hour postload plasma glucose and pigment epithelium-derived factor levels are markers of coronary artery inflammation in type 2 diabetic patients.	J Nucl Cardiol. 2020 Aug;27(4):1352-1364.	Original Article
104	Kumagai E, Adachi H, Kai H, et al.	心臓・血管内科	Incidence of peri-operative pulmonary thromboembolism in Kurume.	Kurume Med J. 2020 Jul 1;66(1):49-52.	Original Article
105	Tahara A, Tahara N, Maeda-Ogata S, et al.	心臓・血管内科	Brown adipose tissue activation in severe heart failure.	Eur Heart J. 2020 Jul 1;41(25):2415. (オンライン)	Case report
106	Honda A, Shojima T, Tahara N, et al.	心臓・血管内科	Life-threatening huge right atrial diverticulum.	Eur Heart J Case Rep. 2020 Aug 16;4(5):1-2.	Case report
107	Kumanomido J, Ohe M, Shibata R, et al.	心臓・血管内科	Effective use of keishibukuryogan in subcutaneous hematoma after implantable cardiac device surgery in two cases.	Intern Med. 2021 Mar 1;60(5):755-759.	Case report
108	Tahara A, Tahara N, Maeda-Ogata S, et al.	心臓・血管内科	Clinical hallmarks making diagnosis of infective endocarditis.	J Nucl Cardiol. 2020 Aug;27(4):1391-1393.	Case report
109	Nishio S, Ushijima K	産婦人科	Clinical significance of primary debulking surgery and neoadjuvant chemotherapy-interval debulking surgery in advanced ovarian cancer	Japanese Journal of Clinical Oncology 2020 Apr; 50 (4) : 379 - 86	Review

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	著者等の 特定機能病院における所 属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
110	Nishio S, Matsumoto K, Takehara K, et al.	産婦人科	Pembrolizumab monotherapy in Japanese patients with advanced ovarian cancer : Subgroup analysis from the KEYNOTE-100	Cancer Science 2020 Apr; 111(4): 1324 - 32	Original Article
111	Nishio S, Murotani K, Nakao S, et al.	産婦人科	Investigation of clinicopathological features of vulvar cancer in 1068 patients: A Japanese Gynecologic Oncology Group (JCOG) nationwide survey study	Gynecologic Oncology 2020 Nov; 159(2): 449 - 55	Original Article
112	Kawano K, Yamaguchi T, Nasu H, et al.	産婦人科	Subcategorization of atypical glandular cells is useful to identify lesion site	Diagnostic Cytopathology 2020 Jul; 48(12) :1224 - 9	Original Article
113	Kurokawa Y, Kaida Y, Hazama T, et al.	腎臓内科	Effect of switching from cinacalcet to etelcalcetide on secondary hyperparathyroidism in patients undergoing hemodialysis:an ESCORT trial.	Renal Replacement Therapy 6:64, 2020 Dec (オンライン)	Original Article
114	Imai T, Yamasaki H, Mitsuyama K, et al.	腎臓内科	Single Needle Granulocyte and Monocyte Apheresis for Ulcerative Colitis	A Retrospective Safety Analysis. Kurume Med J. 66:1-7, 2020 Jul	Original Article
115	Moriyama T, Nakayama Y, Soejima M, et al.	腎臓内科	Effect of tolvaptan on renal involvement in patients with autosomal dominant polycystic kidney disease according to different gene mutations	Clinical and Experimental Nephrology 2021 Mar; 25(3): 251-260.	Original Article
116	Yuka Goto, Yoshie Otsuka, Kenji Ashida, et al.	内分泌代謝内科	Improvement of skeletal muscle insulin sensitivity by 1 week of SGLT2 inhibitor use	Endocrine Connections. 9, 2020 Jul: 599-606.	Original Article
117	Masato Shikata, Kenji Ashida, Yuka Goto, et. al.	内分泌代謝内科	Pasireotide-induced hyperglycemia in a patient with Cushing' s disease: Potential use of sodium-glucose cotransporter 2 inhibitor and glucagon-like peptide-1 receptor agonist for treatment	Clinical Case Reports. 12, 2020 Aug: 2613-2618	Case report
118	Sakata K, Fujimori K, Komaki S, et al.	脳神経外科	Pituitary gangliocytoma producing TSH and TRH: A review of "Gangliocytomas of the sellar region"	Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism. 2020 Oct; 105(10) :3109-3121	Review
119	Shigetaka Suekane, Shigeru Yutani, Akira Yamada, et al.	泌尿器科	Identification of biomarkers for personalized peptide vaccination in 2,588 cancer patients	International Journal of Oncology 56(6) :1479-1489, 2020 Jun	Original Article
120	Naoyuki Ogasawara, Makoto Nakiri, Hirofumi Kurose, et al.	泌尿器科	Longitudinal Changes in Health-related Quality of Life After 125 I Low-dose-rate Brachytherapy for Localized Prostate Cancer	Anticancer Research 40(11) :6443-6456, 2020 Nov	Original Article
121	Kei-Ichiro Uemura, Tokumasa Hayashi, Tasuku Hiroshige, et al.	泌尿器科	Ectopic subcutaneous transplantation of fetal rat urogenital sinus and seminal vesicle promotes the organ growth and formation	Acta Histochemica 122(5) : 151569, 2020 Jul (オンライン)	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所 属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
122	Sugawara A, Koga H, Abe T, et al.	皮膚科	Lichen planus-like lesion preceding bullous pemphigoid development after programmed cell death protein-1 inhibitor treatment.	J Dermatol 2021 Mar;48(3):401-404.	Case report
123	Keisuke HIROTA	リハビリテーション部	Risks of Muscle Atrophy in Patients with Malignant Lymphoma after Autologous Stem Cell Transplantation	Phys Ther Res, 2020 Nov 13;24(1):69-76	Original Article
124	Akiba J, Fujita N, Yano H	病理部	Recent Topics Concerning Combined Hepatocellular Cholangiocarcinoma.	Kurume Med J. 2020 Jul 1;66(1):29-36.	Review
125	Sakai Y, Miwa R, Mitsuoka M, et al.	薬剤部	Combinatorial vancomycin and piperacillin/tazobactam results in elevated vancomycin trough concentration and acute kidney injury: a case report.	YAKUGAKU ZASSHI 140, 751- 754, May, 2020	Case report

計125件

- (注)
- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
 - 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること（筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。）
 - 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、または et al. とする。
 - 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
 - 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月（原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない）：巻数：該当ページ」の形式で記載すること
（出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月（オンライン掲載月）の後に（オンライン）と明記すること）。
記載例： Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec（オンライン）
 - 6 「論文種別」欄には、Original Article, Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文 (任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	轟 圭太、 古賀 真、 篠崎 勝美 他	歯科口腔医療センター	壊死性筋膜炎と考えられた深頸部腫瘍 の1例	日本口腔診断学会雑誌 33 (3) 226-231, 2020	Case report
2	松尾 勝久、 喜久田 翔伍、 篠崎 勝美 他	歯科口腔医療センター	上下顎歯肉に大きな腫瘤を形成した色 素性母斑の1例	日本口腔腫瘍学会雑誌 32 (3) 71-76, 2020	Case report
3	日野 聖慧、 岩本 修、 喜久田 翔伍 他	歯科口腔医療センター	口腔に生じた顆粒細胞腫の3例および 文献的考察	日本口腔診断学会雑誌 33 (2) 160-165, 2020	Case report
4	篠崎 勝美、 安陪 由恵、 喜久田 翔伍 他	歯科口腔医療センター	上大静脈症候群を発症した下顎歯肉扁 平上皮癌の1例	日本口腔腫瘍学会雑誌 32 (2) 57-61, 2020	Case report
5	Kiminori Sato, Shun-ichi Chitose, Takeharu Ono, et al.	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	Cytoskeleton of cells in vocal fold macula flava unphonated for a long period	Auris Nasus Larynx 47:1033-1037, 2020 Dec	Original Article
6	小野 剛治、 千年 俊一、 田中 法端 他	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	下咽頭癌に対する経口的レーザー切除 術と局所進行喉頭癌に対する選択的動 注化学放射線治療-喉頭機能温存につ いて-	頭頸部癌 46:5-10, 2020	Original Article
7	佐藤 文彦、 内藤 嘉紀、 秋葉 純 他	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	PAX3-FOXO1融合遺伝子を伴った鼻腔原 発泡巣型横紋筋肉腫の1例	診断病理 37:36-41, 2020	Original Article
8	佐藤 公則、 千年 俊一、 佐藤 公宣 他	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	高齢者の睡眠中の嚥下・呼吸動態と嚥 下性肺炎-終夜睡眠ポリグラフと嚥下 筋電図の同時記録による研究-	喉頭 32:105-114, 2020	Original Article
9	千年 俊一、 佐藤 公則、 田中 久一郎 他	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	喉頭軟骨骨折の外科的対応	日気食会報 71:102, 2020	Original Article
10	佐藤 公宣、 小野 剛治、 進 武一郎 他	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	術前補助療法の変遷に伴う局所進行舌 扁平上皮癌の治療成績	頭頸部癌 46:340-346, 2020	Original Article
11	佐藤 公宣、 三橋 拓之、 梅野 博仁	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	内視鏡下に切除し得た鼻腔原発上皮筋 上皮癌例	日鼻誌 59:390-397, 2020	Original Article
12	坂本 早季、 橋詰 直樹、 深堀 優 他	小児外科	当院における小児外傷性脾損傷の臨床 経緯	日小外会誌 56(1): 53-58, 2020	Original Article
13	升井 大介、 深堀 優、 倉八 朋宏 他	小児外科	マムシ咬傷の局所病変に対して漢方治 療が治療の一助となった1例	日本小児救急医学会雑誌 19(2): 190-194, 2020	Case report
14	愛甲 崇人、 橋詰 直樹、 深堀 優 他	小児外科	横行結腸間膜に連続する癒着から診断 に難渋した左傍十二指腸ヘルニアの1 例	日小外会誌 56(6):944- 948, 2020	Case report
15	Sano T, Akuta N, Suzuki Y, et al.	消化器内科	Fulminant Hepatitis due to de novo Hepatitis B after Cord Blood Transplantation Rescued by Medical Treatment	Internal Medicine. 2020 Jun 59; 1519-1524	Case report
16	Sakata M, Watanabe J, et al.	消化器内科	Prolapsed tongue papilloma cured by administration of the traditional Japanese (Kampo) herbal medicine, Keishibukuryogan-ka-yokuinin: A case report	Journal of Integrative Medicine. 2020 Nov 18 : 535-538	Case report
17	鈴木 浩之、 岩本 英希、 新聞 敬 他	消化器内科	Stage IVA 巨大肝細胞癌に対し血管内 治療と分子標的治療を中心とした集学 的治療で長期生存が得られている症例	肝臓. 2020 Aug 61: 418- 425	Case report
18	Kawaguchi T, Arinaga-Hino T, Morishige S, et al.	消化器内科	Prednisolone-responsive primary sclerosing cholangitis with autoimmune hemolytic anemia: a case report and review of the literature	Clinical Journal of Gastroenterology. 2021 Feb 14: 330-335	Case report

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文 (任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
19	Ishida Y, Okabe Y, Hisaka T, et al.	消化器内科	Mass-forming adenomyomatosis in extrahepatic bile duct	Gastrointestinal Endoscopy, 2021 Feb 93: 522-524	Case report
20	佐藤 寿洋、 酒井 久宗、 後藤 祐一 他	外科	隣アーケードを介した肝動脈に浸潤を 伴った膵頭部癌に対し膵頭十二指腸切 除術を施行した1例	癌と化学療法 47(4) : 715-717, 2020年4月	Case report
21	佐藤 寿洋、 酒井 久宗、 室屋 大輔 他	外科	成人型輪状腺を伴った十二指腸乳頭部 癌に対し経十二指腸的乳頭切除術を 行った1症例	癌と化学療法 47(13) : 715-717, 2020年12月	Case report
22	村上 直孝、 磯邊 太郎、 赤木 由人 他	外科	肥満症に対する外科治療	久留米医学会雑誌 83 (10- 12) : 236-246, 2020	Original Article
23	藤田 文彦、 赤木 由人	外科	特集 進行直腸癌のベストプラクティ ス II. 各論 6. 術前CRTと肛門温存手 術	外科, 82 (7) : 749-755, 2020	Original Article
24	志波 直人、 松瀬 博夫、 吉光 一浩 他	整形外科	宇宙飛行士の筋骨格系廃用とその対応 —国際宇宙ステーション利用研究と装 置の市販化—	宇宙・医学・栄養学 vol.2: 54-61, 2020 Aug	Original Article
25	栢元 佑太郎、 山田 圭、 佐藤 公昭 他	整形外科	上位頸椎と中下位頸椎レベルの圧迫性 脊髄障害における術中脊髄モニタリ ングの波形変化の比較検討	脊髄機能診断学40(1):52- 59, 2020	Original Article
26	瀧田 哲矢、 平岡 弘二、 松田 光太郎 他	整形外科	手足指骨発生軟骨肉腫の治療	臨床雑誌整形外科71(1):27- 32, 2020	Original Article
27	松垣 亨、 松原 廣勝、 白濱 正博 他	整形外科	不安定型仙骨骨折に対するSIRFとM プレートによる固定の比較	骨折42(2) : 460-463, 2020	Original Article
28	神保 幸太郎、 井手 洋平、 下河邊 久雄 他	整形外科	自傷行為および自殺企図による飛び 降り外傷の検討	骨折 42(2) : 653-656, 2020	Original Article
29	坂井 健介	整形外科	小児橈骨頸部・肘頭骨折	MB Orthopaedics 33(5) : 89- 97, 2020	Original Article
30	野口 幸志、 副島 崇	整形外科	【鏡視下手術の進歩—小関節から脊椎ま で】 陈旧性足関節外側靭帯損傷に対する鏡 視下外側靭帯修復術の治療成績 二つ の術式間の比較	別冊整形外科77号 : 234- 239, 2020	Original Article
31	野口 幸志、 副島 崇	整形外科	【整形外科診療におけるエコー入門—さ あ使ってみよう超音波】基本的テク ニック 下肢の神経ブロック	整形・災害外科63(10) : 1295-1303, 2020	Original Article
32	野口 幸志、 副島 崇、 大川 幸浩	整形外科	【足部・足関節の画像解析—画像から 病態を探る】 超音波 足関節靭帯の超音波画像によ る病態評価と損傷靭帯の治療過程評価	臨床整形外科55(11) : 1205- 1209, 2020	Original Article
33	杉山 卓郎、 野口 幸志、 江崎 佑平 他	整形外科	腓骨筋腱脱臼に対するsuture-bridge techniqueによる上腓骨筋支帯修復術の 治療経験	日本足の外科学会雑 誌. 41(1) : 311-313, 2020	Original Article
34	吉光 一浩、 田中 稔一郎、 諫山 輝刀 他	整形外科	大腿骨近位部骨折術後患者および骨粗 鬆症性椎体骨折患者の入院時骨粗鬆 症 評価と治療状況の 調査	整形外科と災害外科69(4) : 918-921, 2020	Original Article
35	白石 絵里子、 小倉 友介、 井上 貴司 他	整形外科	観血的修復術及びSalter骨盤骨切り術 を同時に施行した発育性股関節脱臼診 断遅延例の1例	整形外科と災害外科69(3) : 477-479, 2020	Original Article
36	松浦 充洋、 吉田 史郎、 仲摩 憲次郎 他	整形外科	キーンバック病に対して有頭骨部分骨 切り短縮術を行った1例	整形外科と災害外科 69(1):145-149, 2020	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文 (任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
37	村松 由崇、 北城 梓、 柴田 英哲 他	整形外科	母趾基節骨疲労骨折の1例	整形外科と災害外科 69(2):260-264, 2020	Original Article
38	村松 由崇、 北城 梓、 田原 慎太郎 他	整形外科	大腿骨頸部骨折に対する新しい内固定 材による治療	骨折42(2):478-482, 2020	Original Article
39	林田 一友、 伊藤 弘雅、 森 啓介 他	整形外科	肩甲骨体部水平骨折に対してプレート 固定で対応した1例	整形外科と災害外科 69(3)582-584, 2020	Original Article
40	中島 帆奈美、 保利 俊雄、 園田 玲子 他	整形外科	肘頭脱臼骨折3症例の治療経験	整形外科と災害外科 69(4):717-720, 2020	Original Article
41	新井 律樹、 春田 雅俊、 實吉 安信 他	眼科	硝子体手術により摘出した硝子体異物 の2例.	眼科臨床紀要14(3):151- 154, 2021	Original Article
42	西住 俊輝、 春田 雅俊、 大島 寛之 他	眼科	原因不明とされた視野障害の診断に光 干渉断層計が有用であった2例.	眼科臨床紀要 13(7):457- 460, 2020	Original Article
43	Ueki S, Rikimaru H, Rikimaru-Nishi Y, et al.	形成外科・顎顔面外科	Late-Onset Infection of Resorbable Plates After Multiple Facial Fractures	The Journal of Craniofacial Surgery. 2020 May/June ; 31(3): e280-e282	Case report
44	王丸 陽光、 王丸 光一、 右田 尚 他	形成外科・顎顔面外科	色素レーザー治療経過中に潰瘍を形成 した乳児血管腫の検討	日本形成外科学会誌 40(10):509-514, 2020年10月	Original Article
45	坂田 憲亮、 山内 大輔、 右田 尚 他	形成外科・顎顔面外科	感染が胸鎖関節に及んでいた開心術後 縦隔炎の2例	形成外科 63(11):1427- 1432, 2020年11月	Case report
46	Masafumi Fukuda, Masakazu Nabeta, Takanori Muta, et al.	高度救命救急センター	Disturbance of consciousness due to hyperammonemia and lactic acidosis during mFOLFOX6 regimen: Case report	Medicine (Baltimore). 2020 Aug14;99(33):e21743. report	Case report
47	福田 理史、 牟田 隆則、 平湯 恒久 他	高度救命救急センター	無抗凝固薬透析の完遂率向上をめざし て 久留米大学病院高度救命救急セ ンターでの無抗凝固薬透析症例にお ける検討	日本急性血液浄化学会雑誌 2020: 11(2): 119-23	Original Article
48	Shima S, Umino S, Kitamura M, et al.	小児科	Severe Hyponatremia in Combined Diabetic Ketoacidosis and Hyperglycemic Hyperosmolar State: A Case Report of Two Japanese Children	Cureus. 2020 Aug 11;12(8):e9672.	Case report
49	Yatsuga S, Amano N, Nakamura- Utsunomiya A, et al.	小児科	Clinical characteristics of cytochrome P450 oxidoreductase deficiency: a nationwide survey in Japan	Endocr J. 2020 Aug 28;67(8):853-857.	Original Article
50	大園 秀一	小児科	Digenic mutations in ALDH2 and ADH5 impair formaldehyde clearance and cause a multisystem disorder, AMed syndrome.	Science Advance 6: eabd7197, 2020 Dec	Original Article
51	大園 秀一	小児科	Impacts of physical late effects on presenteeism in childhood cancer survivors.	Pediatrics International 62(11):1241-1249, 2020 Nov	Original Article
52	大園 秀一	小児科	A Case of Congenital Leukemia With MYB-GATA1 Fusion Gene in a Female Patient.	Journal of Pediatrics Hematology/Oncology. 2021 Mar (Epub ahead of print)	Case report

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文 (任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
53	Gondo K, Yokomine M, Yoshizato T, et al	産婦人科	Clues and pitfalls in prenatal diagnosis of classic cloacal exstrophy using ultrasonography and magnetic resonance imaging: A case with sequential observation from 17 to 30 weeks' gestation and literature review	J Obstet Gynaecol Res 2020 Aug; 46(8): 1443 - 9	Case report
54	牛嶋 公生	産婦人科	高齢婦人科がん患者の治療	Geriatric Neurosurgery 2020 Jul; 32: 9 - 12	Original Article
55	Inoue A, Horinouchi T, Yoshizato T, et al	産婦人科	Peculiar blood flow profiles among placental chorionic villous vessels of an abnormally thick placenta in a case of systemic lupus erythematosus characterized using microvascular imaging	J Obstet Gynaecol Res 2020 Dec; 46(12): 2684 - 90	Case report
56	Horinouchi T, Yoshizato T, Kojiro-Sanada S, et al	産婦人科	Missing decidual Doppler signals as a new diagnostic criterion for placenta accreta spectrum: A case described using superb microvascular imaging	J Obstet Gynaecol Res 2021 Jan; 47(1): 411 - 5	Case report
57	宮城 尚久、 森岡 基浩	脳神経外科	高齢者の周術期ガイドラインを読み解く 高齢患者の最適な周術期管理: ACS NSQIP/American Geriatrics Societyガイドラインからの要約 Part-I	Geriatric Neurosurgery. 2020 Jul;32:41-42	Original Article
58	古賀 蒼久、 内門 久明、 服部 剛典 他	脳神経外科	高齢者頸椎症性脊髄症の特徴と治療成績	Geriatric Neurosurgery. 2020;32:77-80	Original Article
59	森岡基浩	脳神経外科	2章 急性期治療と看護 2脳出血、 疾病・障害・生活の疑問をズバリ解決 &フカポリ解説 脳卒中看護 3年目 の教科書	ブレインナーシング夏季増 刊号 2020年8月:52-62	Original Article
60	Hirofumi Kurose, Kosuke Ueda, Mami Uegaki, et al.	泌尿器科	Paraganglioma of the urinary bladder: Case report and literature review	IJU Case Reports 3(5):192-195, 2020 Sep	Case report
61	Yoshihiro Kawaguchi, Shuichiro Hayasi, Nobutoshi Kawagoe, et al.	泌尿器科	Retroperitoneal abscess due to Achromobacter xylosoxidans presenting as femoral pain	Urology Case Reports 31:101153, 2020 Jul(オン ライン)	Case report
62	Hirofumi Kurose, Kosuke Ueda, Makoto Nakiri, et al.	泌尿器科	Synchronous primary triple urogenital malignant tumors of kidney, prostate and bladder	Urology Case Reports 33:101277, 2020 May(オン ライン)	Case report
63	Masato Hara, Hiraki Teruyuki	麻酔科	Circulatory management using FloTrac/Vigileo® and transesophageal echocardiography for mesenteric traction syndrome during colectomy in a patient with hypertrophic cardiomyopathy.	J Cardiothorac Vasc Anesth. 2020;34(4):1015- 1018.	Case report
64	Sayo Nakao, Shinichi Yamada, Katsuya Tsuda, et al.	麻酔科	Intrathecal administration of nusinersen for spinal muscular atrophy: report of three cases with severe spinal deformity.	JA Clinical Reports. 2020 Apr;6, (オンライン)	Case report
65	広田 桂介、 松瀬 博夫、 橋田 竜騎	リハビリテーション部	血液腫瘍疾患における造血幹細胞移植後の骨格筋量変化とその要因	Jpn J Rehabil Med Vol. 57 No. 4 2020	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文 (任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
66	高田 清佳	看護部	重症救急患者家族のニーズ 家族の語りからみえたもの	日本救急看護学会雑誌 2021 年;Vol. 23:57-68	Original Article
67	内田 沙織、 北口 佳那、 山田 卓 他	薬剤部	医原性低Na血症が疑われた口腔がん術 後の1症例	久留米医学会雑誌 83(4- 5):88-93, 2020年5月	Case report
68	Yoshiro Sakai, Ryoko Miwa, Masahiro Mitsuoka, et al.	薬剤部	Combinatorial Vancomycin and Piperacillin/Tazobactam results in Elevated Vancomycin Trough Concentration and Acute Kidney Injury:A case Report	YAKUGAKU ZASSHI 140, 751- 754 (2020)	Case report
69	Tanoue S, Uchiyama Y, Hirohata M, et al.	放射線科	Follow-up non-contrast MRA after treatment of intracranial aneurysms using microcoils with prominent metallic artifact: a comparative study of TOF-MRA and Silent MRA.	Jpn J Radiol, doi.org/10.1007/s11604- 020-00981-x, 2020 Sep	Original Article
70	Tanoue S, Endo H, Hiramatsu M, et al.	放射線科	Delineability and anatomical variations of perforating arteries from normal vertebral artery on 3D DSA: implications for endovascular treatment of dissecting aneurysms.	Neuroradiology, doi: 10.1007/s00234-020-02549- y, 2020 Sep	Original Article

計70件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有 無
・ 手順書の主な内容 任務、組織、議事、申請手続き、審査、審査の方針 等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 21回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有 無
・ 規定の主な内容 委員会の構成及び運営、委員会の審議事項 等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 8回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1回
・ 研修の主な内容 臨床研究における指針及び臨床研究法、臨床研究の基礎知識、研究審査のための解説及び臨床研究機関の体制整備	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

※別紙 1 のとおり

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数 219.51 人

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
※別紙 2 のとおり			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

高度の医療に関する臨床研修の実施

様式4-1 別紙①

	診療科	研修内容	統括者氏名	
1	内科	腹部エコー	消化器内科	鳥村 拓司
		上部内視鏡		
		心臓カテーテル検査・冠動脈形成術・末梢動脈形成術	心臓・血管内科	福本 義弘
		心エコー・経食道エコー検査		
		ペースメーカー・除細動器植え込み術・心臓再同期療法		
		腎臓エコー検査	腎臓内科	深水 圭
		透析技術研修		
エコーガイド下における甲状腺腫瘍に対する穿刺吸引細胞診	内分泌代謝内科	野村 政壽		
2	整形外科	整形外科疾患に対する診療診断技術と術式の研修、周術期の管理	整形外科	志波 直人
3	形成外科・顎顔面外科	形成外科基本的手術手技の研修（局所麻酔手術の執刀）	形成外科・顎顔面外科	清川 兼輔
		形成外科基本的理論研修（創傷治癒、皮膚切開、皮膚縫合、採皮、植皮）		
4	脳神経外科	脳血管造影検査	脳神経外科	森岡 基浩
		穿頭手術		
		神経内視鏡手術		
6	外科	ABI検査	外科	赤木 由人
		腹部エコー検査		
		上部消化管（造影）検査		
		上部消化管（内視鏡）検査		
		下部消化管（造影）検査		
		下部消化管（内視鏡）検査		
		マンモグラフィー検査		
乳腺エコー検査				
6	泌尿器科	腹部エコー	泌尿器科	井川 肇
7	産婦人科	ハイリスク妊婦に対する産科医療	産婦人科	牛嶋 公正
8	麻酔科	手術麻酔（手術管理）	麻酔科	平木 照之
9	皮膚科	皮膚科学の各論および基本的手技に関する研修	皮膚科	名嘉真 武國
9	精神神経科	精神神経科専門医研修	精神神経科	小曽根 基裕
10	眼科	眼科基本的診療及び治療の学習	眼科	吉田 茂生
		網膜光凝固術などの眼科処置の習得		
11	放射線科	放射線治療位置決め及び治療の理解に対する研修	放射線科	安陪 等思
		CT・MRIの総合的画像診断学理解と読影手技の研修		
		IVRの手技の研修		
		核医学の読影手技と適応疾患の理解に対する研修		
12	小児科	心房中隔欠損症に対するカテーテル治療	小児科	山下 裕史朗
		脊髄性筋萎縮症に対するヌシネルセン療法		
		ムコ多糖Ⅱ型患者に対する酵素補充療法		
		重症新生児仮死に対する脳低温療法		
		予防接種		
13	高度救命救急センター	重症外傷患者に対する外傷初期診療と集中治療	高度救命救急センター	高須 修
		心肺停止蘇生後の患者に対する体温管理法		
		体外循環式心肺蘇生法		

研修統括者

様式4-1 別紙②

研修統括者氏名	診療科	役職	臨床経験年数	特記事項
星野 友昭	呼吸器・神経・膠原病内科	診療部長	32	
谷脇 考恭		診療部長	36	
井田 弘明		診療部長	33	
鳥村 拓司	消化器内科	診療部長	38	
福本 義弘	心臓・血管内科	診療部長	30	
深水 圭	腎臓内科	診療部長	28	
野村 政壽	内分泌代謝内科	診療部長	34	
長藤 宏司	血液・腫瘍内科	診療部長	32	
小曾根 基裕	精神神経科	診療部長	38	
山下 裕史朗	小児科	診療部長	38	
赤木 由人	外科	診療部長	34	
志波 直人	整形外科	診療部長	38	
清川 兼輔	形成外科・顎顔面外科	診療部長	37	
森岡 基浩	脳神経外科	診療部長	35	
八木 実	小児外科	診療部長	38	
名嘉真 武國	皮膚科	診療部長	33	
井川 掌	泌尿器科	診療部長	32	
牛嶋 公生	産婦人科	診療部長	37	
吉田 茂生	眼科	診療部長	26	
梅野 博仁	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	診療部長	32	
安陪 等思	放射線科	診療部長	36	
楠川 仁悟	歯科口腔医療センター	診療部長	33	
平木 照之	麻酔科	診療部長	24	
高須 修	高度救命救急センター	センター長	31	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 志波 直人
管理担当者氏名	診療関係：各診療科部長（別紙1参照） 管理関係：事務部長 江口 訓史

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部倉庫 ・ 病院資料室 ・ 各診療科医局・資料室 ・ 各診療科受付 ・ 薬剤部 	<p>①紙媒体【入院】 番号法：一元番号法 保管法：ターミナルプリント 保管対象：平成15年4月1日～平成25年9月30日 診療録・診療諸記録（外部倉庫） レントゲンフィルム（セミアクティブカルテ室・外部倉庫・診療科医局資料室） 一部は平成21年4月1日より、スキャンセンター作業室内のPACSにおいて電子保存（現在も作業進行中） ※平成15年3月31日以前の診療録に関しては、外部倉庫及び各診療科の医局管理にて資料室等に保管されているものもあり。</p> <p>②紙媒体【外来】 番号法：一元番号法 保管法：ターミナルプリント 保管対象： ・最終来院日より1年以内（各診療科受付） ・最終来院日より1～10年以内（外部倉庫） ・最終来院日より10年以上（セミアクティブカルテ室・外部倉庫・診療科医局資料室）</p> <p>③電子媒体【入院・外来】 平成25年10月1日以降の診療記録については、紙媒体で発生したのものもスキャンし、全てを電子媒体で保存している。</p>
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		

病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	管理課	部門ごとに、電子媒体や紙ファイルにて保管・管理している。 以下同じ。
		高度の医療の提供の実績	管理課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	管理課	
		高度の医療の研修の実績	管理課	
		閲覧実績	管理課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	管理課	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院経営室 薬剤部	
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療安全管理事務室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全管理事務室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理事務室 臨床工学センター
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学センター		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学センター		

感染関連マニュアル
(電子カルテ及び紙媒体)

感染対策委員会会議資料、ICT会議資料(メール送信)

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療情報管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	高難度新規医療技術管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	未承認新規医薬品・医療機器管理部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	内部監査室
		職員研修の実施状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		管理者が有する権限に関する状況	管理課
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	内部監査室
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	病院経営室		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

管理担当者一覧

様式5 別紙①

診療科	管理担当者氏名	診療科	管理担当者氏名
呼吸器・神経・膠原病内科	星野 友昭	泌尿器科	井川 掌
消化器内科	鳥村 拓司	産婦人科	牛嶋 公生
心臓・血管内科	福本 義弘	眼科	吉田 茂生
腎臓内科	深水 圭	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	梅野 博仁
内分泌代謝内科	野村 政壽	放射線科	安陪 等思
血液・腫瘍内科	長藤 宏司	歯科口腔医療センター	楠川 仁悟
精神神経科	小曾根 基裕	麻酔科	平木 照之
小児科	山下 裕史朗	高度救命救急センター	高須 修
外科	赤木 由人	呼吸器病センター	星野 友昭
整形外科	志波 直人	消化器病センター	光山 慶一
形成外科・顎顔面外科	清川 兼輔	循環器病センター	福本 義弘
脳神経外科	森岡 基浩	内科総合外来	深水 圭
小児外科	赤木 由人	乳腺外科・一般外科 総合外来	赤木 由人
皮膚科	名嘉真 武國	薬剤部	福本 義弘

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 志波 直人	
閲覧担当者氏名	診療関係：各診療科部長（別紙 1 参照） 管理関係：事務部長 江口 訓史	
閲覧の求めに応じる場所	第 3 会議室	
閲覧の手続の概要		
「病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧請求書」を提出し、病院長決裁後、第 3 会議室にて閲覧。		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

閲覧担当者一覧

様式6 別紙①

診療科	管理担当者氏名	診療科	管理担当者氏名
呼吸器・神経・膠原病内科	星野 友昭	泌尿器科	井川 掌
消化器内科	鳥村 拓司	産婦人科	牛嶋 公生
心臓・血管内科	福本 義弘	眼科	吉田 茂生
腎臓内科	深水 圭	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	梅野 博仁
内分泌代謝内科	野村 政壽	放射線科	安陪 等思
血液・腫瘍内科	長藤 宏司	歯科口腔医療センター	楠川 仁悟
精神神経科	小曾根 基裕	麻酔科	平木 照之
小児科	山下 裕史朗	高度救命救急センター	高須 修
外科	赤木 由人	呼吸器病センター	星野 友昭
整形外科	志波 直人	消化器病センター	光山 慶一
形成外科・顎顔面外科	清川 兼輔	循環器病センター	福本 義弘
脳神経外科	森岡 基浩	内科総合外来	深水 圭
小児外科	赤木 由人	乳腺外科・一般外科 総合外来	赤木 由人
皮膚科	名嘉真 武國	薬剤部	福本 義弘

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 安全管理に関する基本的考え方 (2) 安全管理のための委員会その他医療機関内の組織に関する基本的事項 (3) 安全管理のための職員研修に関する基本方針 (4) 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 (5) 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 (6) 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 (7) 患者からの相談への対応に関する基本方針 (8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（有・無） ・ 開催状況：年 12回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 重大な問題その他委員会において取り扱う問題が発生した場合における速やかな原因究明のための調査及び分析、その結果を活用した医療に係る安全確保を目的とした改善のための方策の立案、実施及び職員への周知 (2) 改善のための方策の実施状況調査、必要に応じた当該対策の見直し (3) 医療の安全管理の啓発及びその評価を図るために必要な事項 (4) 医療安全管理マニュアルの改訂及び各部署の安全対策に関する手順の作成指導 (5) リスクマネジャー会議招集 (6) 医療安全に係る患者からの相談に関する対応 (7) 医療事故調査制度に基づく死亡症例に関する事項 (8) その他委員長が必要と認める事項 <p style="margin-left: 20px;">主な内容：</p> <p style="margin-left: 40px;">事件事例報告、各下部小委員会からの報告、警鐘事例報告、死亡症例報告、医薬品管理状況報告、監査委員会報告、福岡県四大学病院安全会議報告、日本医療機能評価機構からの事故情報報告、PMDAからの情報報告、医療安全関連規則の制定改廃審議、その他</p> 	

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 35回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）：別紙1のとおり 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（<input checked="" type="radio"/>有 <input type="radio"/>無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療安全推進委員会（多職種）で業務改善計画書を作成し、院内の問題点抽出、計画、実施、評価、改善活動を実施、中間及びまとめを委員会報告 (2) インシデント小委員会での内容の審議、対策立案、周知 (3) セイフティコントロールチームでは、チームで再発予防策を検討すべきインシデント・合併症・併発症事例に対して、再発予防策の実施状況や改善状況の確認、フィードバックを行っている。 (4) 医療安全管理対策委員会にて報告し、各部署にて共有 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療関連感染対策に関する基本的な考え方 (2) 委員会の組織に関する基本的な事項 (3) 職員研修に関する基本方針 (4) 感染発生状況の報告に関する基本方針 (5) 感染発生時対応に関する基本方針 (6) 指針の閲覧に関する基本方針 (7) その他医療関連感染対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) VRE積極的監視培養の結果報告 (2) ICTからの活動報告（抗生剤適正使用状況監視、耐性菌サーベイランス結果報告） (3) 針刺し・切創体液曝露報告 (4) 病棟ラウンド、外来ラウンド状況報告 (5) 感染リンクナース委員会の活動状況報告等 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 20回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）：別紙2のとおり 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 血培陽性者及び感染症法に定められた感染症に関する菌（耐性菌）、ウイルスに関して、電子カルテ上で確認、その都度アウトブレイク対応表に準じてICD/ICNが介入。 (2) 検査部門・NICU部門におけるJANISに参加。 (3) 耐性菌発生時は状況に応じて、管轄保健所や九州厚生局などへ報告。 (4) 院内感染対策推進として、院内でICT/LN活動を積極的に行い、病棟出張勉強会に注力。 	

(5) 地域病院と連携し、研修・講習会等を実施。

(6) COVID-19関連の教育研修を全職員及び地域に向けて実施。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る
措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 7回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 2020年4月1日 令和2年度新採用者オリエンテーション 「処方箋と医薬品の取扱い」 2020年4月15日～ 第177回久留米大学病院TQM講習会 「医薬品の安全使用について」 2020年5月15日 2020年度新人看護師研修会 「薬剤の知識と危険性について/麻薬の取扱い方法」 2020年7月22日～ 第181回久留米大学病院TQM講習会 「最新のCOVID-19の状況と第2波に備えるために」 2020年11月25日 救命センター勉強会 「NECでの処方・注射入力のポイントと注意事項」 2020年12月4日 西10回病棟勉強会 「抗がん剤の特性・危険性について」 2020年12月8日 東10回病棟勉強会 「アテゾリズマブ+ベバシズマブ併用療法」 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有 無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 病棟・外来での医薬品（定数配置薬、麻薬、向精神薬、毒薬、消毒薬、医薬用外毒物・劇物を含む）管理状況の定期的チェック（定数見直し、数、有効期限も含む） (2) 病棟・外来での医薬品情報の整理・周知状況の定期的チェック (3) 手順書順守状況の確認（医薬品の受領、与薬、調製、ダブルチェック等） 	

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)
- ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば) :
使用事例なし

- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :
 - (1) 未承認薬については未承認新規医薬品・医療機器管理部を担当部門として、未承認新規医薬品等評価委員会を設置し、適切な使用方法等を審議し、使用の情報を得ている。
 - (2) 未承認薬等医薬品の申請手続きの周知徹底を図るため、各診療科への「周知文」を毎年度初めに配付するとともに、院内イントラネットに申請義務、内部通報、手順書を明示している。
 - (3) 適応外使用等については薬剤部において疑義照会で把握した者はDI室で情報を管理し、薬事委員会、医薬品安全管理責任者へ報告し、病院倫理委員会への申請を促している。
 - (4) 最新の医薬品情報を収集・管理し、各職種に迅速に提供できる体制を整備している。緊急安全性情報・安全性速報、PMDA及び日本機能評価機構の医薬品に関する安全性情報等については、電子カルテシステムのメッセージ機能により情報提供を行い、掲示板の「お知らせ」及び「薬剤部医薬品情報室」に掲載し、文書でも関連部署に配付している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 46回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>【放射線関係】</p> <p>MRI磁場体験、放射線治療装置の定期研修、放射線被ばく管理システム新規導入時の研修、MRI対応生体モニタ導入時の研修、X線CT装置、画像処理サーバー更新時の研修、移動型X線透視撮影装置漆器導入時の研修、移動型X線撮影装置漆器導入時の研修、放射線治療装置操作ソフトウェアバージョンアップ時の研修、MRI装置新規導入時の研修、患者監視モニタ更新時研修、X線CT装置バージョンアップ時研修、透視装置新規導入時研修</p> <p>【その他医療機器関係】</p> <p>(1) 人工呼吸器：患者を対象とした安全な人工呼吸器療法及び構造、アラーム及び対処法</p> <p>(2) 閉鎖式保育器：保育器管理に押さえておきたい基本</p> <p>(3) 血液浄化装置：血液浄化の安全管理、緊急時及びアラーム時の対処について</p> <p>(4) 人工心肺装置及び補助循環装置：安全な取扱い、緊急時の対処法、日常の管理について</p> <p>(5) 除細動装置：基本的な構造及び使用方法、日常点検、注意事項について</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有 無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>【放射線関係】</p> <p>始業・終業点検、メーカーによる定期点検、自主点検</p> <p>【その他医療機器】</p> <p>人工呼吸器、閉鎖式保育器、血液浄化装置、人工心肺装置及び補助循環装置、除細動装置については、年に1回の定期点検及び必要な部品の交換、日常の保守管理を行っている。</p>	

④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集
その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有 無)
- ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば) :
Coroventis CoroFlow解析プログラム
- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

【放射線関係】

- (1) パルス透視の利用による被ばく線量の低減
- (2) 新規導入装置の取り扱い説明会の実施
- (3) 被ばく線量管理システムを使用した患者被ばく線量管理

【その他医療機器】

医療機器安全情報について、多方面から情報収集を行い、より重要な情報については、医療機器管理小委員会、医療安全管理対策委員会に報告している。また、各病棟・外来、関係診療科に「安全情報」として電子カルテ上に掲載することにより、院内への周知を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 責任者の資格 (医師) 歯科医師) ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療安全管理部長を医療安全管理責任者として配置し、医療安全担当副院長である。 (2) 医療安全、医薬品安全及び医療機器安全について必要な知識を有している。 (3) 医療安全に関わる研修を定期的に受講している。 <p>【業務内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 病院長と連携し、医療安全に資する診療内容のモニタリング、医療安全の認識の浸透度の確認を行い、各部門の安全管理業務を把握する。 (2) 専門分野責任者と連携し、各部門の安全管理を推進・指導する。 (3) 医療事故、警鐘事例について周知、指導する。 (4) 医療安全管理上の問題、対策について周知、指導する。 	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (3名) ・ 無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 <p>最新の医薬品情報を収集・管理し、各職種に迅速に提供できる体制を整備している。緊急安全性情報・安全性速報、PMDA及び日本機能評価機構の医薬品に関する安全性情報等については、電子カルテシステムのメッセージ機能により情報提供を行い、掲示板の「お知らせ」及び「薬剤部医薬品情報室」に掲載し、文書でも関連部署に配付している。</p> ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 <ol style="list-style-type: none"> (1) 未承認薬については、未承認新規医薬品・医療機器管理部を担当部門として、未承認新規医薬品等評価委員会を設置し、適切な使用方法等を審議し、使用の情報を得ている。 (2) 未承認薬等医薬品の申請手続きの周知徹底を図るため各診療科への「周知文」を毎年度初めに配付するとともに、院内イントラネットに申請義務、内部通報、手順書を明示している。 (3) 適応外使用等については薬剤部において疑義照会で把握したものはDI室で情報を管理し、薬事委員会、医薬品安全管理責任者へ報告し、病院倫理委員会への申請を促している。 ・ 担当者の指名の有無 (有) ・ 無) ・ 担当者の所属・職種 : 	

(所属： 薬剤部, 職種 薬剤師)	(所属： , 職種)
(所属： , 職種)	(所属： , 職種)

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(有) 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ((有) 無) ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 管理責任者はリスクマネジャー（診療部長）とし、診療録のインフォームド・コンセントに関する監査をサブリスクマネジャー（病棟医長）が毎月5事例程度監査を実施する。監査対象患者はリスクマネジャーが選択する。年に2回インフォームド・コンセントに関する監査の実施状況について定点調査を実施し、7つの監査項目の評価状況を確認する。集計結果を医療安全管理対策委員会で報告し、改善が必要な項目について指導している。 	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	(有) 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療情報センター長を管理責任者として配置している。 ・ 診療情報システム管理委員会統括の下、定期的に相互監査（病棟医長・看護師長が相互に他診療科の診療録監査を行う。）を実施している。 相互監査はチェックリストに基づいて診療記録の内容を確認し、必要に応じて記載方法等について指導を行っている。 ・ 診療情報システム管理委員会統括の下、定期的に科内監査（診療部長・外来医長・病棟医長等で自らの診療科の診療録監査を行う。）を実施している。必要に応じて作成者へ指導を行っている。 ・ 監査の結果は、診療情報システム委員会へ報告し、必要に応じて啓蒙や是正勧告を行っている。 	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	(有) 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員：専従（7）名、専任（1）名、兼任（5）名 うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（3）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 	

うち臨床工学技士：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ 1 ）名

うち事務職員：専従（ 2 ）名、専任（ 1 ）名、兼任（ ）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

- (1) 医療安全確保のための業務改善計画書を作成し、それに基づく医療安全対策実施状況を把握・分析し、医療安全に必要な業務改善等の具体的な対策の策定。
- (2) 事故その他の医療安全管理部門において取り扱うことが必要なものとして、病院長が認める事象が発生した場合における診療録及びその他の診療諸記録、患者及び家族への説明、その他の対応状況を把握し、当該事象の発生の原因の究明及び当該結果に基づく対策の実施等について職員への指導。
- (3) 医療安全に資する診療内容のモニタリング及び医療安全の認識の浸透度の確認等。
- (4) 医療安全管理対策に係る体制を確保するための職員研修の企画、実施、実績の記録。
- (5) 医療安全管理対策に係る取り組みの評価等を行うカンファレンスを週1回開催。
- (6) 医療安全管理対策委員会との連携状況及び事務取扱関連。
- (7) 患者等の相談件数及び相談内容、相談後の取扱関連。
- (8) 医療安全管理者の活動実績の記録関連。
- (9) 医療事故、インシデント・合併症/併発症報告書の収集と集計、分析、対策の実施関連。
- (10) 医療機関等の医療安全に係る情報収集及び医療安全情報発行、職員への周知及び指導関連。
- (11) 医療安全管理マニュアル等の作成、整備関連。
- (12) その他医療安全関連

※ 診療モニタリング

- ・全入院患者に対する深部静脈血栓塞栓症予防対策実施状況（リスク評価、予防策実施状況、予防計画立案、予防策説明状況など）
- ・高難度新規医療技術 説明書・同意書 取得状況、診療記録内容、IC同席率
- ・3b以上事故事例に関するIC同席率
- ・静脈麻酔下で行う処置・検査時のモニタリング実施状況
- ・検査結果報告書見落とし防止策（患者への説明と記録）の実施状況
- ・全死亡症例カルテ確認（入院、侵襲的処置・検査時、退院時のIC記録）
- ・画像診断および病理診断報告書の目的外診断発生時の対応状況
- ・転倒・転落発生率
- ・IC記録に関する監査

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 4 件）、及び許可件数（ 4 件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有 無 ）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有 無 ）
- ・活動の主な内容：
高難度新規医療技術の提供の適否、実施を認める条件等に関する委員会を開催し、その意見を踏まえて、当該高難度新規医療技術の提供、実施を認める条件等について決定したうえで、診療科の長に対しその結果を通知する。
定期的に手術記録、診療録等の記載内容を確認し、当該高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたか否かを確認する。また必要に応じて報告書等の提出を依頼する。
決定事項、確認事項等について病院長に報告する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有 無 ）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有 無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 1 件）、及び許可件数（ 1 件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有 無 ）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有 無 ）
- ・活動の主な内容：
未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等に関する委員会を開催し、その意見を踏まえて、未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等について決定したうえで、診療科の長に対しその結果を通知する。
定期的に診療録等の記載内容を確認し、当該未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて使用

されていたか否か確認する。また必要に応じて報告書等の提出を依頼する。

決定事項、確認事項等について病院長に報告する。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 351 件（うち、死産 49 件）
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 46 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - (1) 死亡、死産症例報告件数、報告状況、医療事故調査支援センターへの報告状況の共有
 - (2) 報告すべき有害事象に関する報告内容検討

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り (有 (病院名：産業医科大学病院) ・ 無)
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (有 (病院名：産業医科大学病院) ・ 無)
- ・ 技術的助言の実施状況
なし

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・ 体制の確保状況
 - (1) 患者相談窓口に関する規約に沿って実施。
 - (2) 医療安全管理部は、相談窓口担当者と連携を図り、医療安全対策に係る患者・家族の相談に適切に応じる体制を支援。
 - (3) 医療安全に関する相談について、医療安全管理部医療安全管理者が対応。
 - (4) 医療安全管理対策委員会で報告。
 - (5) 相談窓口は、医療連携センターに置き、患者から受けた相談について、担当部署で審議対応。

⑫ 職員研修の実施状況

・ 研修の実施状況

別紙 1 及び別紙 2 のとおり

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・ 研修の実施状況

- (1) 特定機能病院管理者養成研修 (日本医療機能評価機構)
- (2) 日本病院薬剤師会医薬品安全管理責任者講習会 (日本病院薬剤師会)
- (3) 令和 2 年度管理者・実務者セミナー (日本医師会、日本医療安全調査機構)
- (4) 令和 2 年度国公立大学附属病院医療安全セミナー (大阪大学)

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

日本医療機能評価機構 令和元年 9 月 6 日 認定 有効期間：令和 6 年 4 月 18 日
一般病院 3 (主たる機能)、精神科病棟 (副機能)、緩和ケア病棟 (副機能)

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

公表する方向で検討している。

・ 評価を踏まえ講じた措置

○ 評価に対する改善措置について、改善審査受審予定 (期日は未定)

(注) 記載時点の状況を記載すること

2020年度安全管理研修会受講者数(対象者)

様式-2 別紙D

日	時	開催時間	内容	講師	研修所要数	申し込み者数	計	その他	備考
1	4月8日(水)	17:00～18:00	個別企業安全管理委員会	高松教育センター 岡本 隆雄 先生 他	1	0	7	0	
2	4月15日(水)	～	第17回TQM講習会 e-Learning「心づな」コンソート インシデント・アクシデント・トラブルの発生・対応と発生原因の究明	高松 久留山 義雄 先生	317	807	101	1,545	0
3	5月21日(水)	～	第17回TQM講習会 e-Learning「心づな」コンソート インシデント・アクシデント・トラブルの発生・対応と発生原因の究明	高松教育センター 菅原 義典 先生 川野 俊雄 先生	211	794	128	1,194	0
4	5月22日(木)	～	NS7セミナー e-Learning「第1回」企業管理計画作成方法」	高松 SICO 高杉 和枝 先生	168	737	96	1,061	0
5	5月18日(月)	～	個別企業安全管理研修(令和元年度の振り返り) e-Learning	高松教育センター 菅原 義典 先生 川野 俊雄 先生 高松教育センター 菅原 義典 先生 川野 俊雄 先生	232	107	84	426	0
6	5月12日(水)	～	防犯カメラ映像活用について(少子化への対応)	高松教育センター 菅原 義典 先生	0	40	10	51	0
7	5月19日(水)	～	第19回TQM講習会 e-Learning「顧客の安全使用について」	高松教育センター 菅原 義典 先生	119	659	61	884	0
8	5月22日(水)	～	道形あきひろが語る安全文化の大切さ	高松教育センター 菅原 義典 先生	0	29	0	29	0
9	7月8日(水)	～	個別企業安全管理研修(令和元年度の振り返り) e-Learning	高松教育センター 菅原 義典 先生 川野 俊雄 先生	3	14	15	33	0
10	7月1日(水)	～	個別企業安全管理研修(令和元年度の振り返り) e-Learning	高松教育センター 菅原 義典 先生 川野 俊雄 先生	97	801	31	1,177	0
11	5月1日(水)	～	個別企業安全管理研修(令和元年度の振り返り) e-Learning	高松教育センター 菅原 義典 先生 川野 俊雄 先生	315	940	213	1,555	0
12	5月8日(水)	～	第3回企業安全管理セミナー e-Learning	高松教育センター 菅原 義典 先生 川野 俊雄 先生	0	23	18	41	0
13	5月1日(水)	～	第18回TQM講習会「TeamSTEP-レポート」	高松教育センター 菅原 義典 先生 川野 俊雄 先生	155	597	151	919	0
14	5月15日(水)	～	個別企業安全管理研修(令和元年度の振り返り) e-Learning	高松教育センター 菅原 義典 先生 川野 俊雄 先生	12	34	11	59	0
15	5月18日(水)	～	個別企業安全管理研修(令和元年度の振り返り) e-Learning	高松教育センター 菅原 義典 先生 川野 俊雄 先生	94	497	25	627	0
16	5月9日(水)	～	個別企業安全管理研修(令和元年度の振り返り) e-Learning	高松教育センター 菅原 義典 先生 川野 俊雄 先生	0	11	6	17	0
17	5月10日(水)	～	個別企業安全管理研修(令和元年度の振り返り) e-Learning	高松教育センター 菅原 義典 先生 川野 俊雄 先生	39	41	18	116	10
18	5月17日(水)	～	第18回TQM講習会「チームステップ」	高松教育センター 菅原 義典 先生 川野 俊雄 先生	41	264	16	328	0
19	5月18日(水)	～	NS7セミナー e-Learning「第3回」e-Learning「オラクルとクラウド」	高松教育センター 菅原 義典 先生 川野 俊雄 先生	44	340	23	415	0
20	5月22日(水)	～	個別企業安全管理研修(令和元年度の振り返り) e-Learning	高松教育センター 菅原 義典 先生 川野 俊雄 先生	97	616	53	791	0
21	5月22日(水)	～	個別企業安全管理研修(令和元年度の振り返り) e-Learning	高松教育センター 菅原 義典 先生 川野 俊雄 先生	61	402	23	494	0
22	5月22日(水)	～	個別企業安全管理研修(令和元年度の振り返り) e-Learning	高松教育センター 菅原 義典 先生 川野 俊雄 先生	71	49	34	156	0
23	10月1日(水)	～	第18回TQM講習会「チームステップ」	高松教育センター 菅原 義典 先生 川野 俊雄 先生	45	357	27	441	0
25	10月1日(水)	～	個別企業安全管理研修(令和元年度の振り返り) e-Learning	高松教育センター 菅原 義典 先生 川野 俊雄 先生	0	15	11	26	0
24	10月1日(水)	～	第18回TQM講習会「チームステップ」	高松教育センター 菅原 義典 先生 川野 俊雄 先生	9	76	11	103	0
26	10月1日(水)	～	個別企業安全管理研修(令和元年度の振り返り) e-Learning	高松教育センター 菅原 義典 先生 川野 俊雄 先生	94	464	36	604	0
27	11月8日(水)	～	個別企業安全管理研修(令和元年度の振り返り) e-Learning	高松教育センター 菅原 義典 先生 川野 俊雄 先生	0	5	7	12	0
28	12月2日(水)	～	個別企業安全管理研修(令和元年度の振り返り) e-Learning	高松教育センター 菅原 義典 先生 川野 俊雄 先生	25	311	13	355	0
29	12月1日(水)	～	第19回TQM講習会 e-Learning「顧客の安全使用について」	高松教育センター 菅原 義典 先生 川野 俊雄 先生	42	249	10	307	0
32	12月2日(水)	～	個別企業安全管理研修(令和元年度の振り返り) e-Learning	高松教育センター 菅原 義典 先生 川野 俊雄 先生	15	64	5	94	0
30	12月2日(水)	～	NS7セミナー e-Learning「第3回」e-Learning「オラクルとクラウド」	高松教育センター 菅原 義典 先生 川野 俊雄 先生	33	232	16	287	0
31	5月17日(水)	～	個別企業安全管理研修(令和元年度の振り返り) e-Learning	高松教育センター 菅原 義典 先生 川野 俊雄 先生	33	247	11	297	0
33	5月17日(水)	～	NS7セミナー e-Learning「第3回」e-Learning「オラクルとクラウド」	高松教育センター 菅原 義典 先生 川野 俊雄 先生	37	243	17	302	0
34	5月17日(水)	～	個別企業安全管理研修(令和元年度の振り返り) e-Learning	高松教育センター 菅原 義典 先生 川野 俊雄 先生	23	151	14	193	0
35	5月18日(水)	～	個別企業安全管理研修(令和元年度の振り返り) e-Learning	高松教育センター 菅原 義典 先生 川野 俊雄 先生	82	172	23	288	0
計					2,515	10,168	1,453	14,703	10

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) 医師免許を有している者 (2) 高度な医療を司る病院の管理運営上必要な資質・能力を有する者 (3) 医療安全確保のために必要な資質・能力を有する者 (4) 久留米大学医学部附属病院及び同医療センターの臨床系の教授であるもの (5) 久留米大学医学部附属病院及び同医療センターにおいて、各々が掲げる理念・目標を実現するために必要な資質・能力を有する者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有・無) ・ 公表の方法 大学ホームページ 	

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有・無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有・無) ・ 公表の方法 大学ホームページ 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
※別紙1のとおり				有・無
				有・無

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法
大学内ホームページに掲載
- ・ 規程の主な内容
 - (1) 大学病院に病院長及び副院長を置く。
 - (2) 病院長は、久留米大学医学部附属病院長等選考内規に基づき選出し、理事長が選任する。
 - (3) 副院長は、病院長が選定し、診療部長会の了承を得るものとする。
 - (4) 副院長は、前項で選定された者の他、医療安全管理部、医療安全管理対策委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務を統括する医療安全管理責任者及び看護部長が就く。
 - (5) 病院長は、大学病院全般の管理、運営にあたる。
 - (6) 副院長は、病院長を補佐し、病院長に事故があるときは、その職務を代行する。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
副院長：病院長を補佐し、病院長に事故があるときは、その職務を代行する。
病院長特別補佐：病院長を補佐し、大学病院の運営全般に関し、病院長に助言等を行うとともに、病院長が必要と認める事項について業務を行う。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
各種委員会の委員長等の就任及び運営すること等を通じて、病院長の指示のもとに病院経営・運営の一端を担うことができおり、病院のマネジメント力に資する有効な経験を積むことができている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2回</p> <p>・ 活動の主な内容： 令和2年10月1日 久留米大学病院医療安全監査委員会 令和3年3月4日 久留米大学病院医療安全監査委員会 (主な活動内容) 福岡大学病院から3名(医師、看護師、薬剤師)、医療を受ける者1名を委員として実施</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)</p> <p>・ 公表の方法： ホームページで公表</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由(注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
藤田 昌樹	福岡大学病院	○	医療安全の知識 を持つ医師	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	1
押川 麻美	福岡大学病院		医療安全の知識 を持つ看護師	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	1
鷲山 厚司	福岡大学病院		医療安全の知識 を持つ薬剤師	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	1
平田 ナツ子			医療を受ける者	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	2
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

学校法人久留米大学内部監査室を設置している。

内部監査規程に基づき活動を行っている。

・ 専門部署の設置の有無 (有 ・ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (有 ・ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)

・ 公表の方法

大学内ホームページに掲載

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 病院の管理運営に関する重要事項を監督する委員会として、理事長の下に「久留米大学病院経営企画委員会」を設置している。委員には法人理事も含まれており、病院の管理運営に関する事項、稼働状況に関する事項、事業計画に関する事項等について審議している。 ・ 会議体の実施状況（年6回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="radio"/>有 <input type="radio"/>無）（年6回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有 <input type="radio"/>無） ・ 公表の方法 大学内ホームページ（イントラネット）に掲載している。 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：久留米大学病院経営企画委員会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)
・ 通報件数 (年 1 件)
・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)
・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)
・ 周知の方法 院内通知及び医療安全管理マニュアルに掲載

久留米大学医学部附属病院長等候補者選考委員会 名簿

No.	氏名	カナ氏名	所属	職名	選定理由	特別の関係	備考
1	有馬 彰博	アリマ アキヒロ	久留米大学	常務理事	久留米大学医学部附属病院長等候補者選考委員会要項 第2条第1項に基づき、理事長が指名する理事	有	委員長
2	永田 見生	ナガタ ケンイ	久留米大学	学長	久留米大学医学部附属病院長等候補者選考委員会要項 第2条第2項に基づき、学長	有	
3	矢野 博久	ヤノ ヒロヒサ	久留米大学	医学部長	久留米大学医学部附属病院長等候補者選考委員会要項 第2条第3項に基づき、医学部長	有	
4	上野 知昭	ウエノ トモサキ	久留米大学	医学部附属病院 看護部長	久留米大学医学部附属病院長等候補者選考委員会要項 第2条第4項に基づき、医学部附属病院 看護部長	有	
5	大塚 まり子	オオツカ マリコ	久留米大学	医学部附属医療センター 看護部長	久留米大学医学部附属病院長等候補者選考委員会要項 第2条第4項に基づき、医学部附属医療センター 看護部長	有	
6	高木 一希	タカキ ヒツギ	久留米大学	事務局長	久留米大学医学部附属病院長等候補者選考委員会要項 第2条第5項に基づき、事務局長	有	
7	住本 英樹	スミモト ヒデキ	九州大学	大学院医学研究院 教授	久留米大学医学部附属病院長等候補者選考委員会要項 第2条第6項に基づき、理事長が委嘱する学外の有識者	有	前九州大学医学部部長
8	朔 啓二郎	サツ ケイジロウ	福岡大学	医学部長	久留米大学医学部附属病院長等候補者選考委員会要項 第2条第6項に基づき、理事長が委嘱する学外の有識者	有	元福岡大学副病院院長
9	上野 高史	ウエノ タカシ	久留米大学	医学部附属病院 副病院長	久留米大学医学部附属病院長等候補者選考委員会要項 第2条第7項に基づき、その他理事長が必要と認める者	有	
10	中島 宗敏	ナカシマ ムネトシ	久留米大学	医学部附属医療センター 副病院長	久留米大学医学部附属病院長等候補者選考委員会要項 第2条第7項に基づき、その他理事長が必要と認める者	有	
11	松田 峻一良	マツダ シュンイチロウ	福岡県医師会	会長	久留米大学医学部附属病院長等候補者選考委員会要項 第2条第7項に基づき、その他理事長が必要と認める者	有	
12	田中 二三郎	タナカ ミサヲ	久留米医師会	会長	久留米大学医学部附属病院長等候補者選考委員会要項 第2条第7項に基づき、その他理事長が必要と認める者	有	

診療部長会名簿

様式6-3 別紙②

No.	メンバー名	職種	役職（部署名）
1	志波 直人	医師	整形外科診療部長（議長）
2	鳥村 拓司	医師	消化器内科診療部長
3	田中 芳明	医師	医療安全管理部長
4	渡邊 浩	医師	感染制御科診療部長
5	福本 義弘	医師	心臓・血管内科診療部長
6	高須 修	医師	高度救命救急センター長
7	赤木 由人	医師	外科診療部長
8	野村 政壽	医師	内分泌代謝内科診療部長
9	上野 知昭	看護師	看護部長
10	星野 友昭	医師	呼吸器・神経・膠原病内科診療部長
11	谷脇 考恭	医師	呼吸器・神経・膠原病内科診療部長
12	井田 弘明	医師	呼吸器・神経・膠原病内科診療部長
13	川山 智隆	医師	呼吸器・神経・膠原病内科診療部長
14	光山 慶一	医師	消化器内科診療部長
15	古賀 浩徳	医師	消化器内科診療部長
16	黒松 亮子	医師	消化器内科診療部長
17	深水 圭	医師	腎臓内科診療部長
18	長藤 宏司	医師	血液・腫瘍内科診療部長
19	山下 裕史朗	医師	小児科診療部長
20	須田 憲治	医師	小児科診療部長
21	西小森 隆太	医師	小児科診療部長
22	安陪 等思	医師	放射線科診療部長
23	藤本 公則	医師	放射線科診療部長
24	小曾根 基裕	医師	精神神経科診療部長
25	名嘉眞 武國	医師	皮膚科診療部長
26	光岡 正浩	医師	外科診療部長
27	田山 栄基	医師	外科診療部長
28	唐 宇飛	医師	外科診療部長
29	久下 亨	医師	外科診療部長
30	森岡 基浩	医師	脳神経外科診療部長
31	廣畑 優	医師	脳神経外科診療部長

診療部長会名簿

様式6-3 別紙②

No.	メンバー名	職種	役職（部署名）
32	吉里 俊幸	医師	産科診療部長
33	牛嶋 公生	医師	婦人科診療部長
34	井川 掌	医師	泌尿器科診療部長
35	梅野 博仁	医師	耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療部長
36	千年 俊一	医師	耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療部長
37	佐藤 公昭	医師	整形外科診療部長
38	平木 照之	医師	麻酔科診療部長
39	清川 兼輔	医師	形成外科・顎顔面外科診療部長
40	力丸 英明	医師	形成外科・顎顔面外科診療部長
41	吉田 茂生	医師	眼科診療部長
42	門田 遊	医師	眼科診療部長
43	楠川 仁悟	医師	歯科口腔医療センター長
44	松岡 秀洋	医師	総合健診センター
45	秋葉 純	医師	病理部長
46	中島 収	医師	臨床検査部長
47	高森 信三	医師	臨床研修センター長
48	山下 典雄	医師	臨床工学センター長
49	淡河 悦代	医師	放射線腫瘍センター長
50	田中 法瑞	医師	画像診断センター長
51	松瀬 博夫	医師	リハビリテーション部長
52	牛島 高介	医師	保険診療管理部長
53	田原 宣広	医師	循環器病センター
54	江口 訓史	事務	病院事務部長

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 通報件数 (年 1件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 周知の方法 院内通知及び医療安全管理マニュアルに掲載

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 クリニカルインディケーター (CI) を久留米大学病院のホームページに掲載	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 消化器病センター (消化器内科、消化器外科)、循環器病センター (心臓血管内科、心臓血管外科)、呼吸器病センター (呼吸器内科、呼吸器外科) を外来部門に設置している。 また、カンサーボードを開催し、がん治療の診療方針の検討等を行っている。	